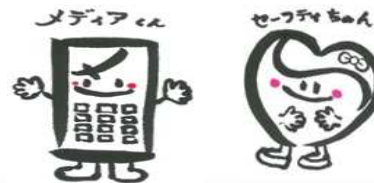


令和2年度（7月実施）
佐久市スマホ、タブレット、ゲーム機等に関する
児童・生徒・園学校保護者アンケート実施結果



子どもは電子メディア機器とどんなつきあいをしているの？ ～児童生徒・園学校保護者対象アンケートの結果と考察～

佐久市教育委員会

Saku Kids メディア Safety

令和2年は、新型コロナウイルスの感染予防をしながら、日常生活を送るという状況からの始まりでした。昨年度末は学校が臨時休校となり、学校での学習ができず、インターネットを利用した学習環境の整備に向けた動きに拍車がかかりました。4月も学校が始まったとたん臨時休校となり、自宅で過ごすことを余儀なくされ、家庭でのインターネット利用が増加し、子どもたちの利用も必然的になってきています。

今後も電子メディアやインターネットに触れる機会が増えることから、情報モラルに始まり、利用上のトラブルや健康被害、依存症などの問題への対策がさらに必要になります。

今年度は、県下でもアンケート調査を実施する市町村や学校が増えてきており、「Saku kids メディア Safety」、佐久市教育委員会としても、佐久市の状況把握と国や県の状況も踏まえつつ、電子メディアとの適切な付き合い方について各種提案を行っていきたいと考えています。

1 アンケートの目的

- (1) 幼児、児童、生徒が電子メディア機器とどのような接触をしているのか、またそれについて各家庭でどのような対応をしているのか、その実態を把握する。
- (2) 各園、学校、PTA が自分たちの実態を知り、自分たちの課題として捉え改善に向けた行動に移す。
- (3) 市全体の状況把握をし、全市的な啓発の取り組みを検討する。

2 実施時期

- 令和2年7月

3 対象学年等について

＜保育園、幼稚園＞ 未満児～年長

＜小学校＞ 3年生以上

＜中学校＞ 全生徒

＜保護者＞ 保育園・幼稚園の保護者 小中学生保護者

＜アンケート結果と考察の目次＞

(1) 小中学生アンケートの結果から P 2～9

(2) 小中学生保護者アンケートの結果から

P 10～16

(3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

P 17～22

4 アンケート内容・実施方法について

- (1) 児童生徒は学校において一斉アンケート。学校の実態により記名・無記名を選択。
実施所要時間は発達段階にもよるが、通常 15 分程度。実施者が一斉に読み上げながら進めるのが理想とした。
- (2) 小中学生の保護者へは電子メール配信システムによるアンケートを実施するが、未加入の家庭には紙ベースのアンケートを実施した。
- (3) 園の保護者へは、園より保護者へアンケート用紙を配布し、回収した。

5 回答が得られた人数・回収率（小数点以下四捨五入）

<児童生徒>

小学校 3年 778人 4年 869人 5年 782人 6年 816人 計 3245人
 3245(回答数)/3448(全児童数) 回収率 94%

中学校 1年 795人 2年 839人 3年 746人 計 2380人
 2380(回答数)/2511(全生徒数) 回収率 95%

<保護者>

小学校 1年 719人 2年 630人 3年 704人 4年 780人 5年 690人 6年 718人
 計 4241人 4241(回答数)/5147(全児童数) 回収率 82%

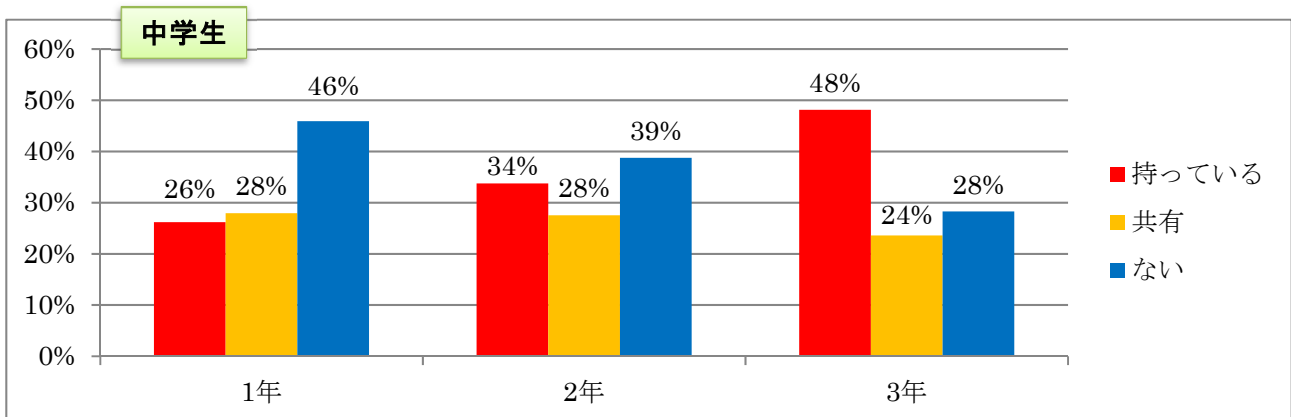
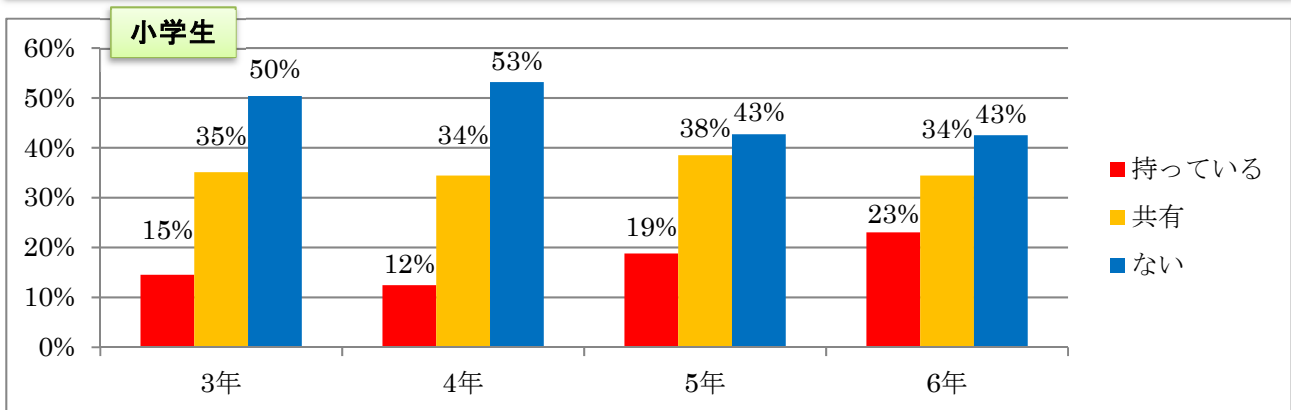
中学校 1年 707人 2年 749人 3年 669人
 計 2125人 2125(回答数)/2511(全生徒数) 回収率 85%

保育園・幼稚園 未満児 680人 年少 622人 年中 685人 年長 684人
 計 2671人 2671(回答数)/3247(全園児数) 回収率 82%

6 結果と考察

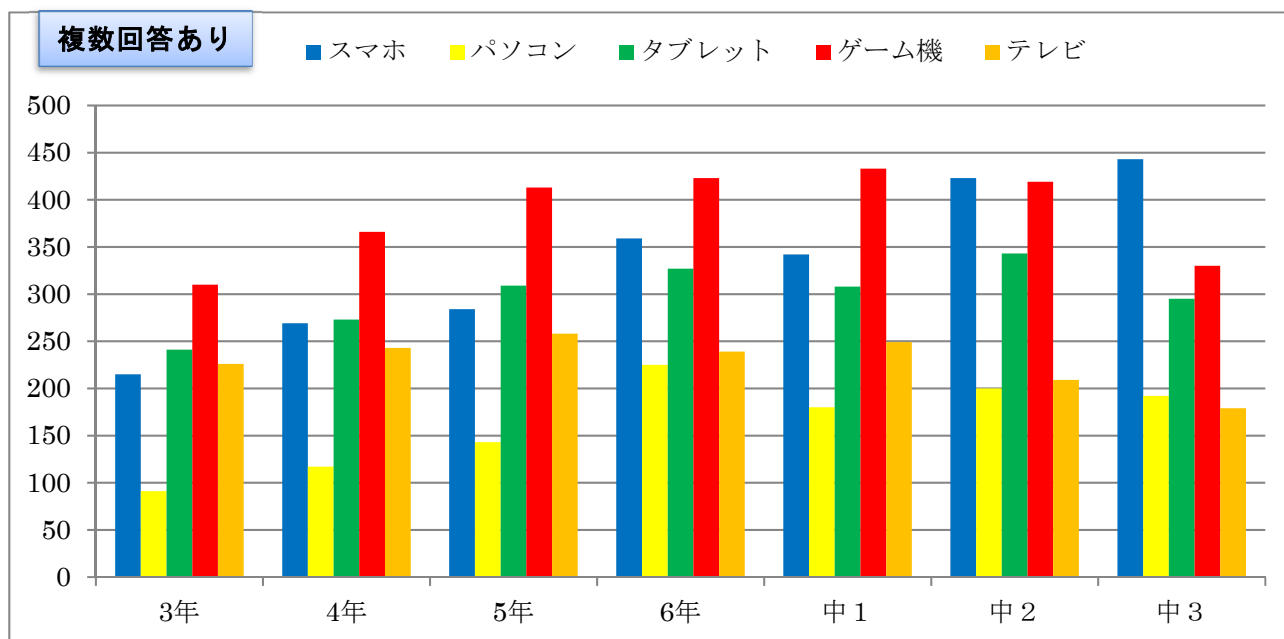
(1) 小中学生アンケートの結果から

問① あなたは、自分が使えるスマホを持っていますか？



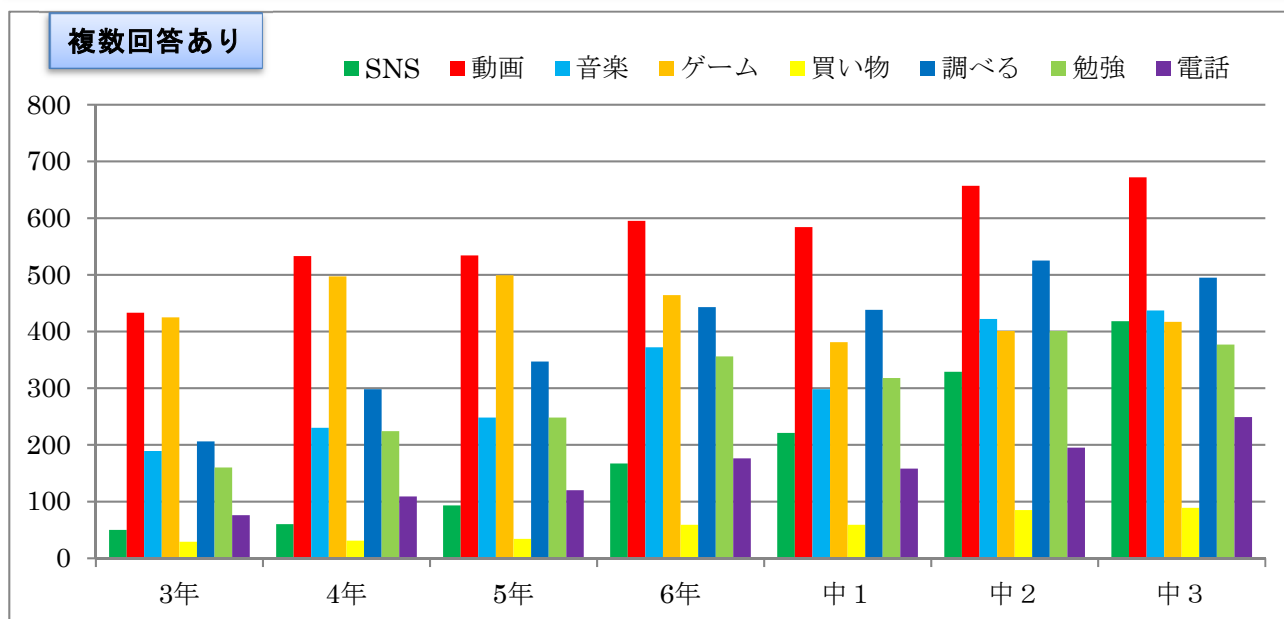
小学生では自分所有のスマホは1割～2割程度、中学生においては2割強から5割程度である。令和2年3月全国の統計（小学生専用40%共用53%中学生専用82%共有16%）と比較すると、佐久市の所持率は明らかに低いことがわかる。昨年度の佐久市の調査との比較では、顕著な変化はあまりみられない。むしろ「ない」が増えており、子ども専用や共有が減っている。意識の高まりの表れかもしれない。

問② インターネット（ゲームやSNSなども含む）を使うとき、
何を使ってつなぎますか？



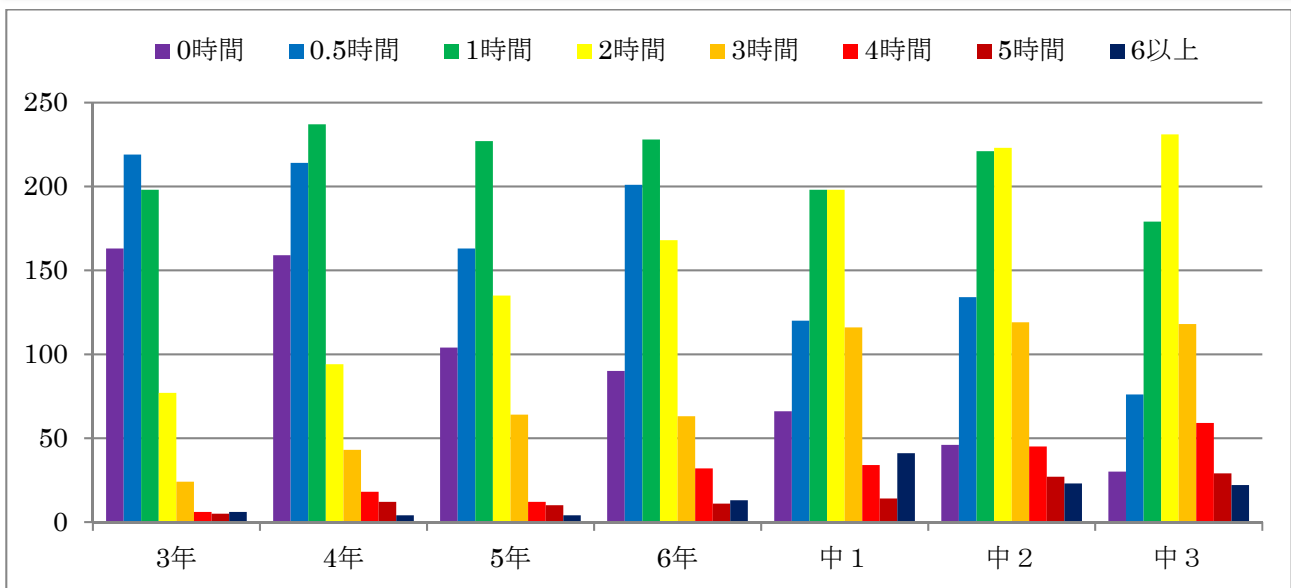
問①の結果のとおり、佐久市内の小中学生はスマホの所持率が低い。スマホを持っていないと、インターネット接続可能なゲーム機やタブレット型機器（アイポッド、アイパッド等）により接続するケースが多く、小学生の接続方法で一番多いのがゲーム機からであり、中学生でもゲーム機やタブレットからの接続の割合が高くなっている。また、年々パソコンを使っての接続割合が減っている反面、今年度はテレビからの接続が増えている。自宅で過ごす時間が増えたことによるものと考えられる。

問③ スマホやパソコン、タブレットでよく使うのは何ですか？



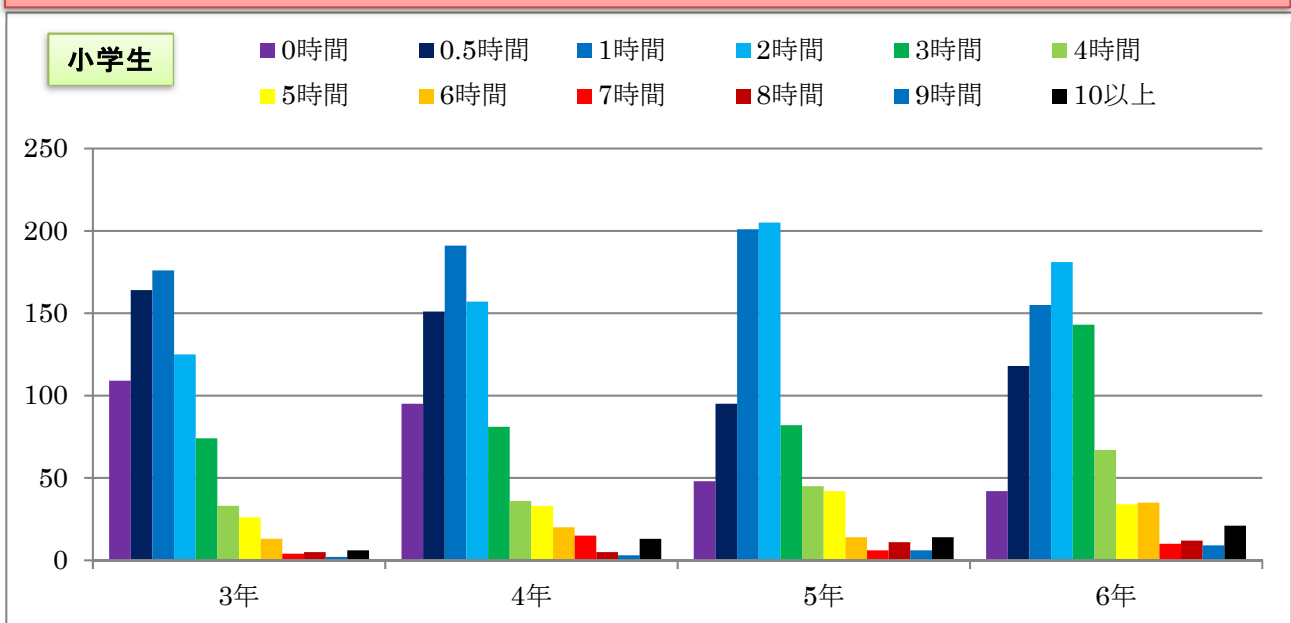
小中学生が一番多く利用しているのはこれまでと同様に動画の視聴であり、小中学生ともにその割合が高い。中学生では、ゲームが若干減り、調べる、勉強が増えており、使い方に少しずつ変化がみられる。小学生の勉強での利用も増加している。

問④-1 平日、平均でどのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？（教材のタブレット学習やテレビの時間は計算しない）

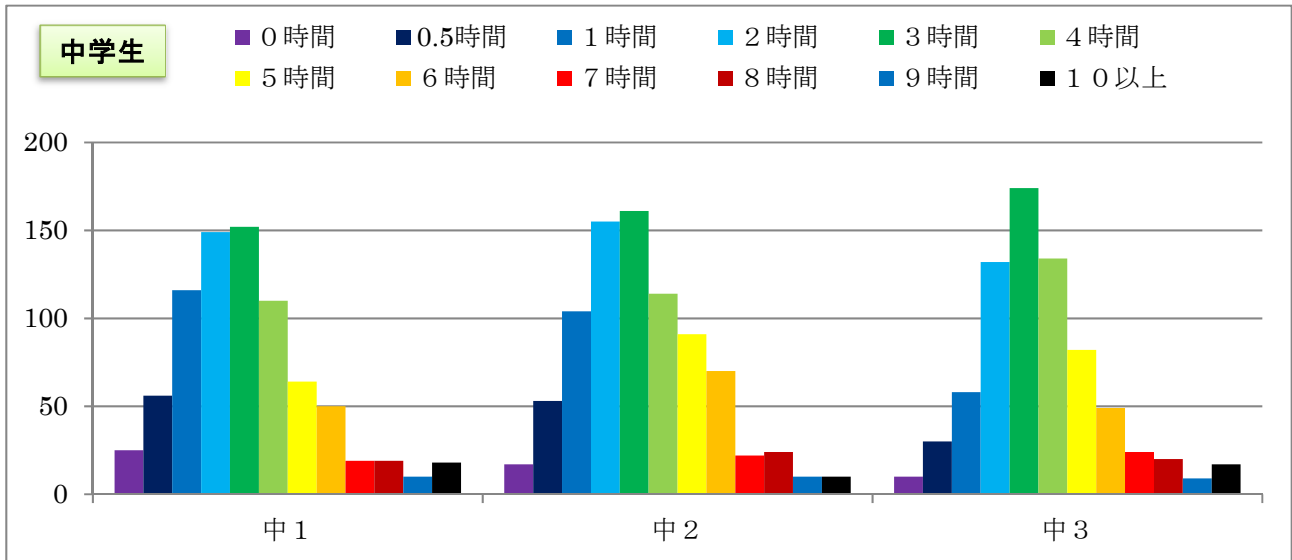


小中学生、いずれも学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。小学生では多くが1時間以内であるが、5、6年生になると2時間が増える。昨年度まで小学生は0時間が多かったが、今年度は大幅に減った。中学生は、昨年度は1時間がピークだったが、今年度は2時間がピークになっている。4時間以上の長時間の使用率も増加している。小、中学生どちらにも平日6時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒がいて、中1生に特に多い。生活リズムや健康被害との関係で注意を喚起していく必要がある。

問④-2 休日、平均でどのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？（教材のタブレット学習やテレビの時間は計算しない）

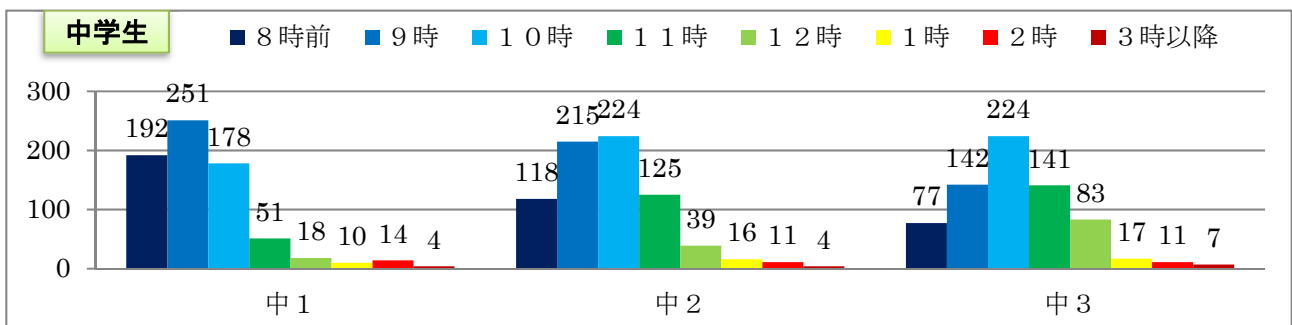
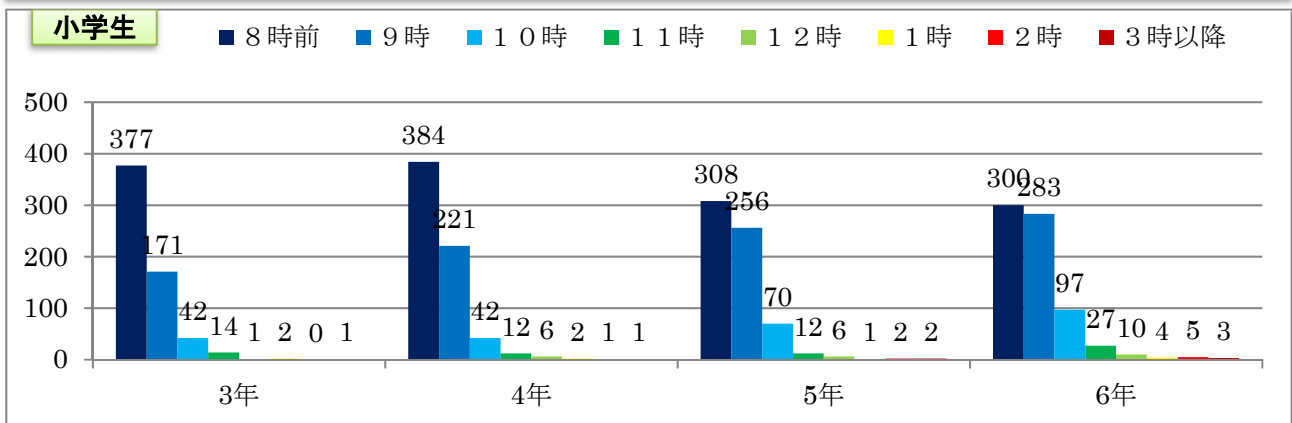


小学生は、休日4時間以上使用する児童が平日より増えている。昨年度と比べると、平日同様に0時間の児童が大きく減った。長時間使用の児童も増加し、10時間以上使用している児童もいる。1日の大半をゲームやインターネットで過ごしている状況を、家庭ではどのように把握し、どう感じ、どう対応しているのか心配である。



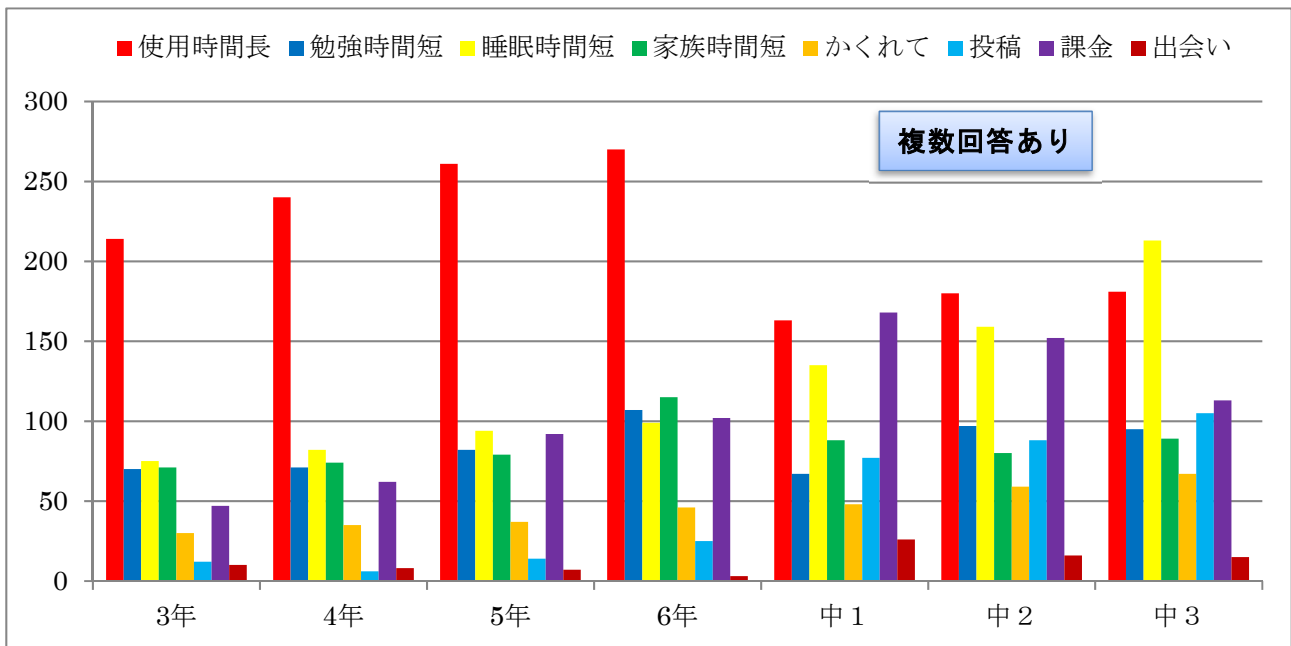
平日と同様に、中学生も学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。昨年度は、ピークが1～2時間だったが、今年度は3時間となり、全体的に使用時間が長くなっている。10時間以上電子メディア機器に触れている生徒が、どの学年にも10人以上いる。臨時休校中に、「ゲームは飽きた。」という生徒の言葉も聞かれ、自己コントロールできる力をつけることも期待したい。

問⑤ 平日の夜、ゲームや動画、SNSなどを何時頃までやっていることが多いですか



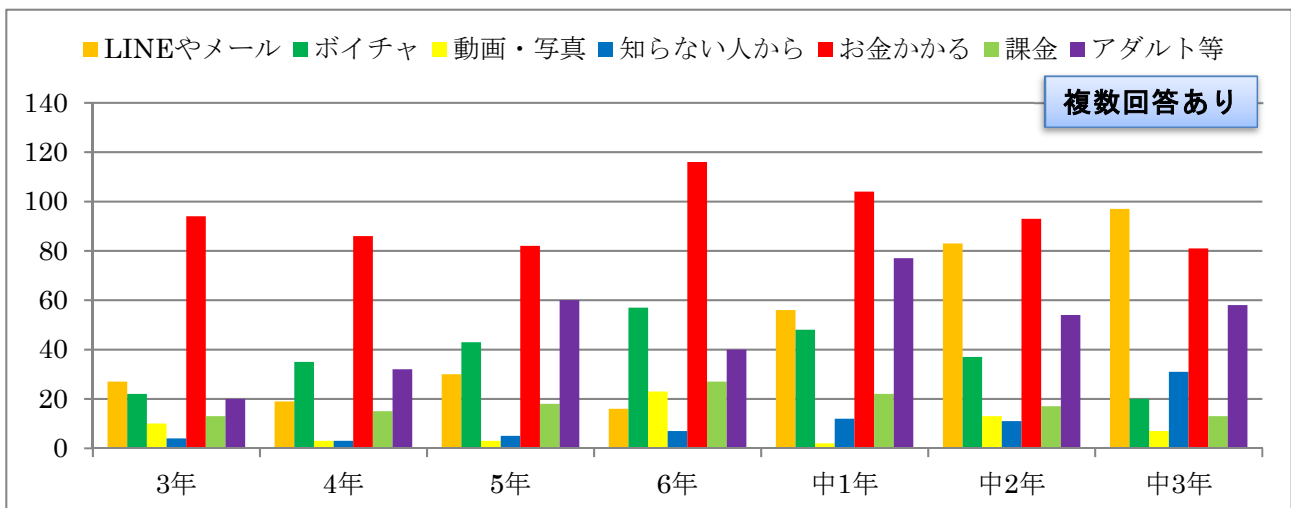
小学生は、午後9時頃までにやめる児童がほとんどである。中学生は、学年が上がるにつれて遅い時間まで使用している状況である。中学2年生から午後11時以降の使用が多くなり、夜中の0時以降まで使用している生徒は徐々に増加している。平日夜の利用であるので、翌日の学校生活への影響も心配される。保護者の目の届かないところでの使用が多いものとみられ、心や体への影響が心配である。

問⑥ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって・・・？



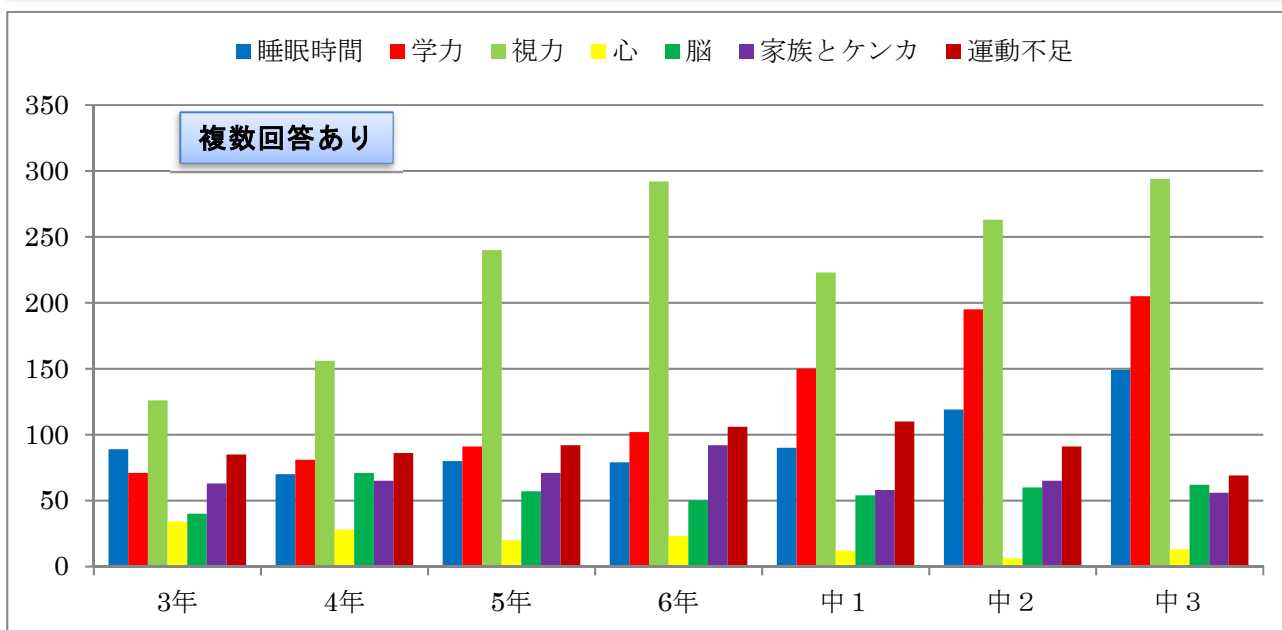
小中学生ともに「使用時間が長くなった」と回答した児童生徒が多い。一方で、勉強時間と睡眠時間が短くなっており、睡眠時間については学年が上がるにつれてその減少を認識している児童生徒が増えている。電子メディア機器の使用が増えた分の時間、睡眠時間を削っている現状が見えてくる。また、ネットで知り合った人と会っている児童生徒はどの学年にも数人いる。どんな人と会っているか、保護者は承知しているか心配されるところである。

問⑦ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになり困った（心配な）ことはありましたか？



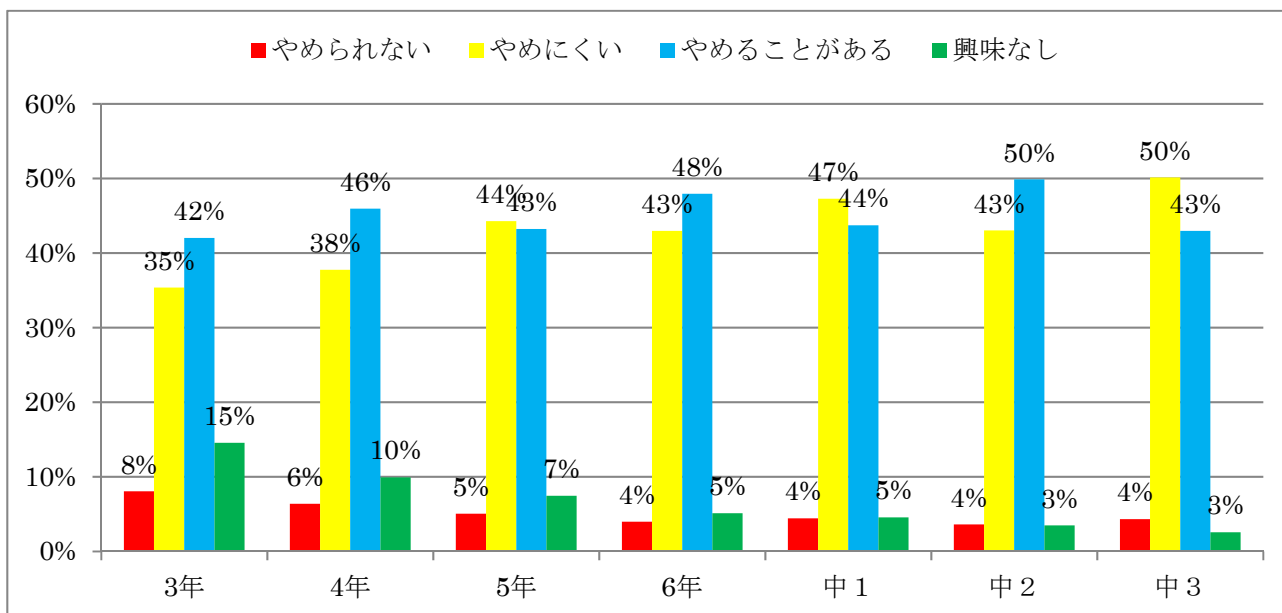
小学生はお金がかかることに心配を感じている。中学生にも同様の心配があることがわかるが、勉強中や寝るときにLINEやメールが来ることに困っている生徒が急増している点は中学生になってみられる特徴である。これは、自分用のスマホを持つことにより、子ども同士の個人的なやり取りが行われるようになったことと関係があると考えられる。アダルトやあやしい広告など、学年問わず困っている。

問⑧ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになり健康等で当てはまることはありますか？



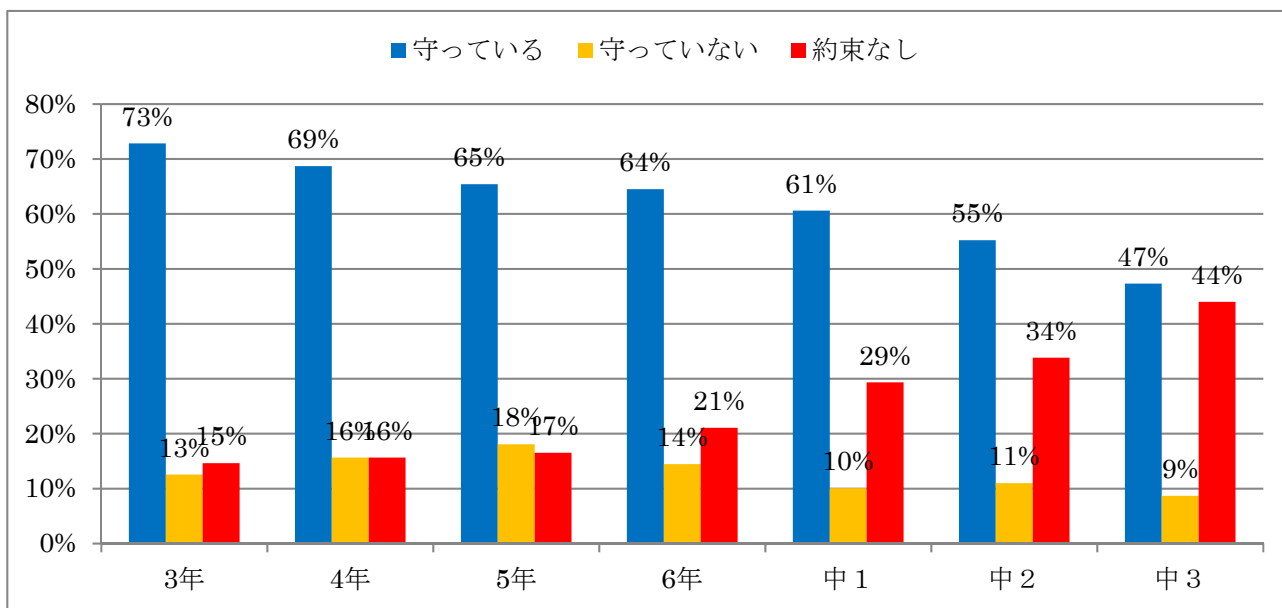
視力を気にする小中学生が多い。学年が上がるごとに学力への心配が増加傾向にある。中学生になると、学力を心配する生徒が目立って増加する。昨年度までほとんど心配されていなかった運動不足が、今年度は顕著に認められる。

問⑨ あなたは、スマホ、ゲーム、インターネット（どれでもよい）に、どのくらい夢中になっていますか？



小学校3年生は、「やめられない」児童が8%だが、学年が上がるごとにわずかながら心のコントロールができるようになって、一定の歯止めが利くようになってくると考えられる。これは昨年度と同様である。しかし、「やめにくい」が昨年同様徐々に増加傾向にあり、その心のコントロールは必ずしも十分とはいえない状況である。「興味なし」が、学年が上がるごとに減少していることもメディアへの依存傾向が進んでいく様子をつかやわせる。

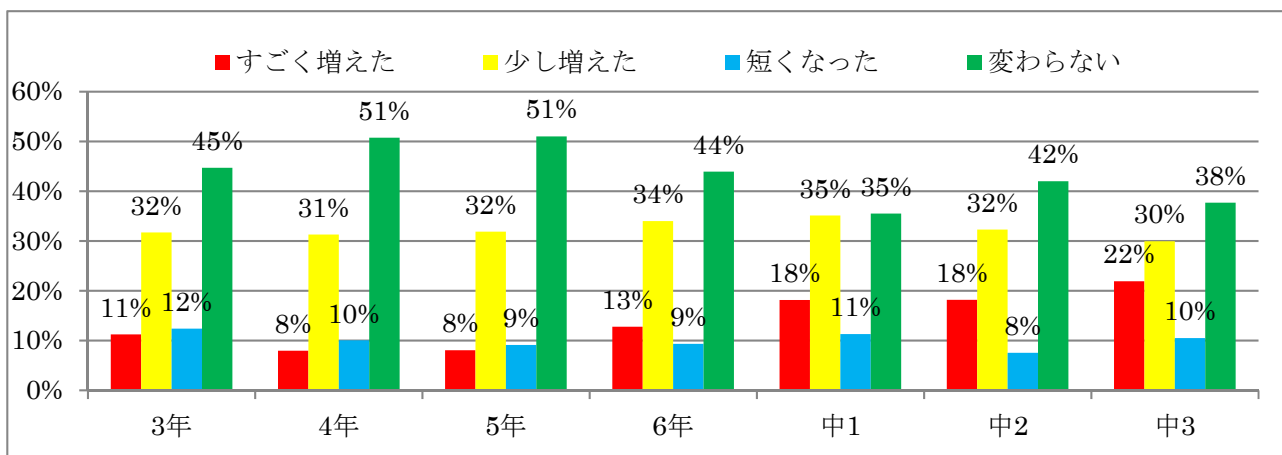
問⑩ スマホやタブレット、ゲーム機を
使うときのお家の人との約束はありますか？



「約束を守っている」と答えている割合が多いのは小学生で、学年が上がるにつれて減少している。それとは逆に、学年が上がるにつれて「約束がない」と捉えている児童生徒が増加しており、中学生になるとその割合が3～5割弱に達する。保護者との意識のずれについては毎年同じ傾向で、後に詳しく述べるが、保護者は、9割ほどが約束があると思っている。中学生になってある程度子どもが自分の判断で利用できる範囲が広がることや、「約束がない」のではなく、「約束がないがごとくになっている」という家庭が学年を追うごとに増えているのではないかと考えられる。

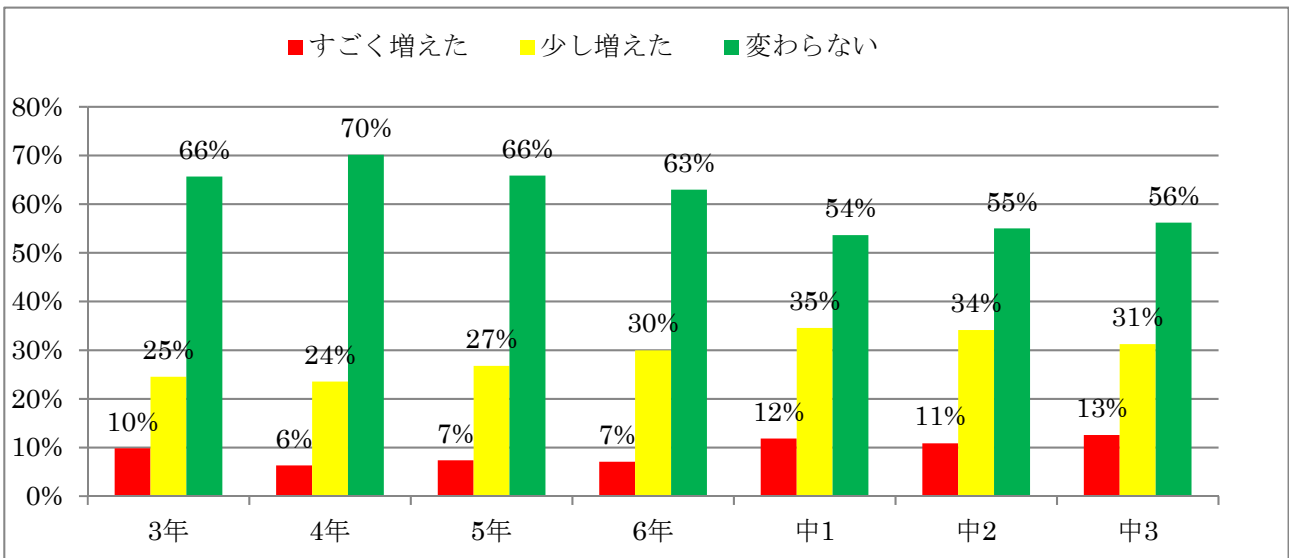
問⑪ （緊急質問）3月からの長い臨時休校の影響①
「休校を終えた今」の自分について・・・

<ゲーム、SNS、動画などを使う時間が・・・>



小学生で1～2割、中学生で2割程度が「すごく増えた」と回答している。「少し増えた」と合わせると、どの学年も半数ほどが増えたことを実感している。反対に、「短くなった」はどの学年も1割程度である。自己管理ができていないか、できていないかによる差があると考えられ、その力をつけるための指導が必要である。

<勉強でパソコンやタブレット、スマホなどを使う時間が・・・>

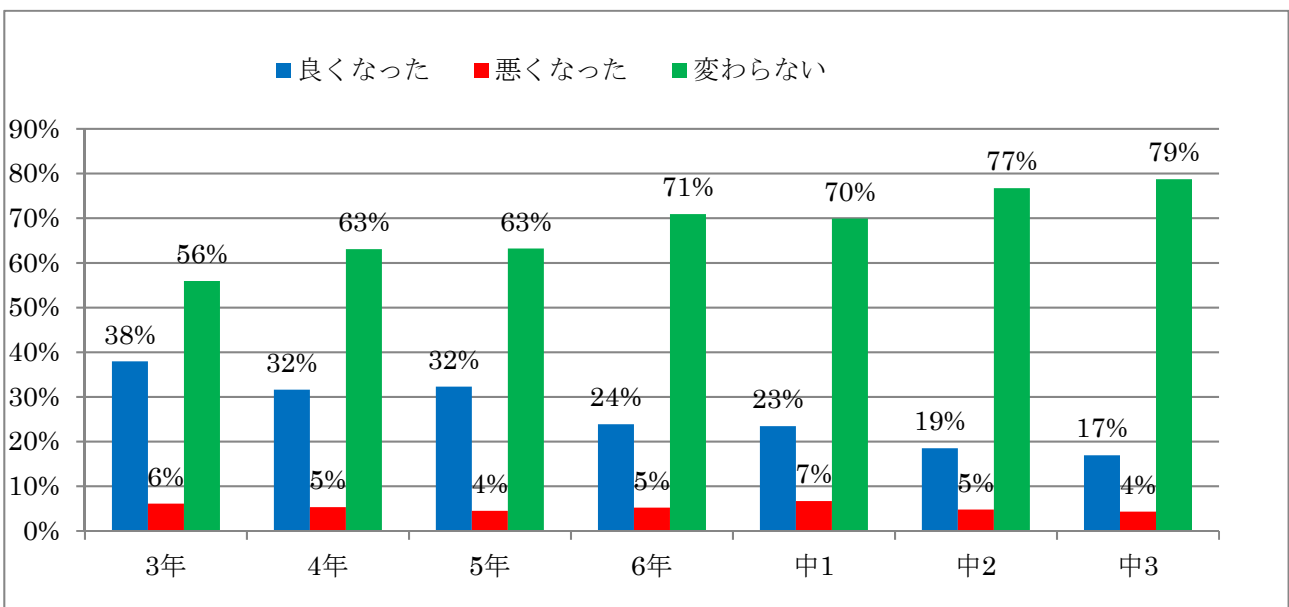


学習面では、電子機器を使用した学習が増加傾向にある。「すごく増えた」は全体の1割程度であるが、「少し増えた」を含むと、小学生で3～4割程度、中学生で4割以上が増えたと感じている。

以前、佐久市教育委員会で行った、保護者アンケートでは、家庭でW i - f i 接続ができる状況が9割以上あり、高速大容量のインターネット接続ができる環境を多くの家庭で整備していることがうかがえる。

問⑫ (緊急質問) 3月からの長い臨時休校の影響②

「休校を終えた今、家族と自分」について・・・



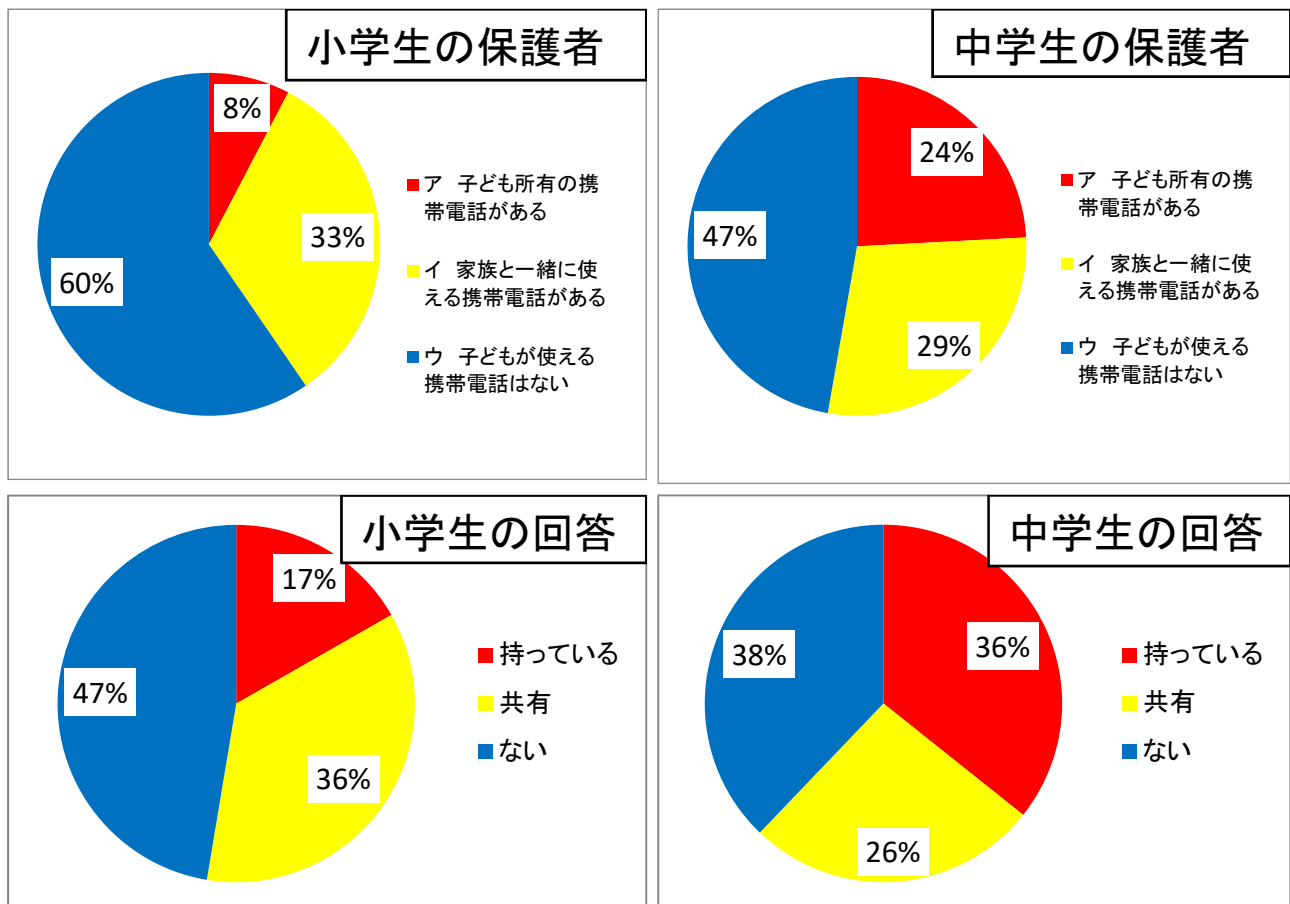
小学生は、2～4割ほどが家族との関係が「良くなった」と感じている。家族で過ごす時間が多くなり、家族間での会話や家族で一緒に楽しく過ごすことが増えたのではないかと考えられる。反対に「悪くなった」はどの学年も5%前後であり、学年が変わっても傾向は変わらない。これは、一緒にいる時間が多くなったことで、意見の食い違いなどが増えたり、1人で自由に過ごせる時間が減ったりしたことなどによるものと考えられる。

(2) 小中学生保護者アンケートの結果から

① お子様の学年を教えてください。

小学校	1年 719人	2年 630人	3年 704人			
	4年 780人	5年 690人	6年 718人			
	計 4241人	4241 (回答数) / 5147 (全児童数)		回収率	82%	
中学校	1年 707人	2年 749人	3年 669人			
	計 2125人	2125 (回答数) / 2511 (全生徒数)		回収率	85%	

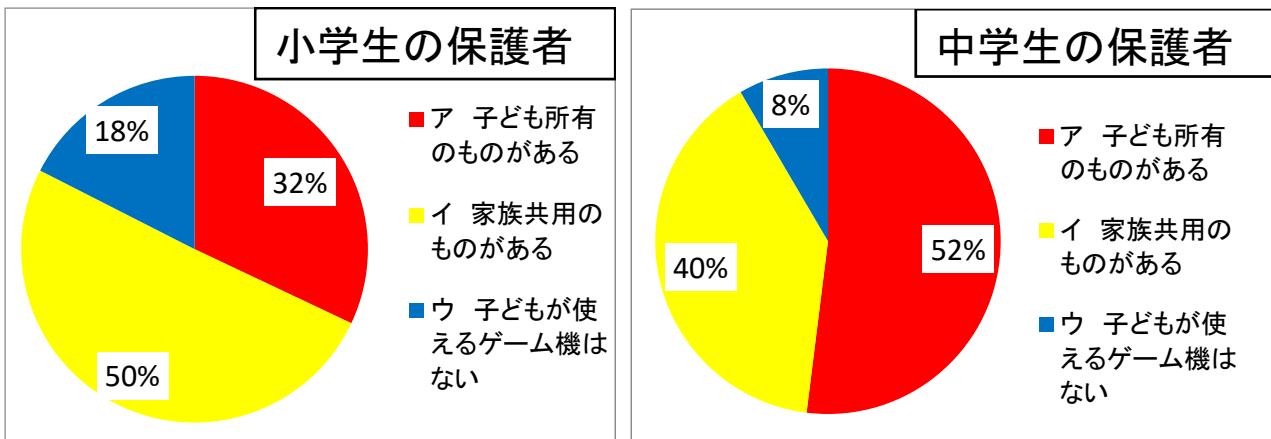
② お子様が使えらる携帯電話(スマホ等)はありますか？



保護者の回答と、学校において子どもが回答した結果に差が見られる。小学生は17%が自分専用の携帯電話を持っているとしているが、保護者は8%で2倍以上の開きがある。中学生は子どもの36%が自分専用の携帯電話があるとしているが、保護者は24%で、こちらも1.5倍の違いがある。考えられる状況として、
 ①保護者は保護者の所有物と思っけていても子どもは「自分のもの」と捉えている。
 ②保護者所有の携帯電話を保護者が認識している以上に子どもが使っている。
 ということが考えられる。この状況は、昨年度と変わらない。「保護者が知らないところで子どもが使っている」といった状況にならないように気をつけていく必要がある。

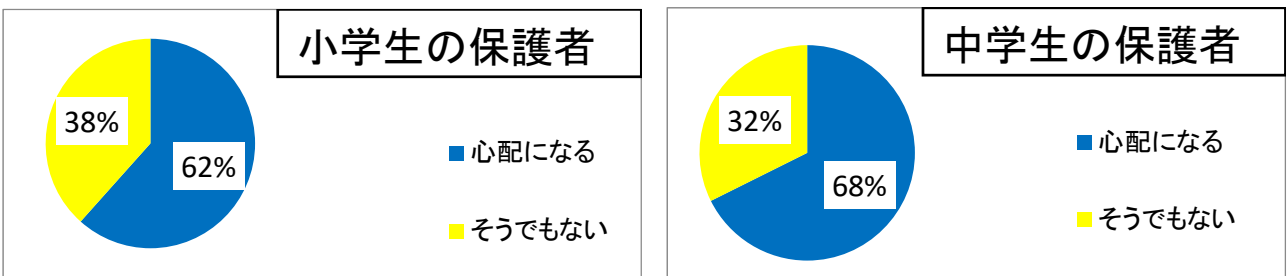
長野県41市町村の集計結果と比べると、佐久市は、小学生で3%、中学生で6%の差があり、県全体と比べて、所持率は低い状況である。

③ お子様が日常的に使えるゲーム機やタブレット等がありますか？

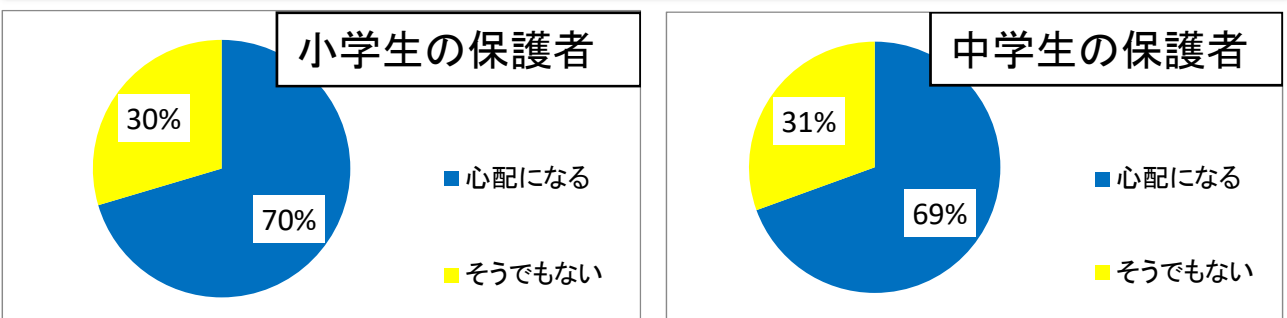


問①の結果からもわかるように、スマホの所持率は比較的低いので、機能的にほぼ同等のタブレットや、インターネット接続が可能なゲーム機を購入するケースが多いことがわかる。この傾向は、昨年度と変わらないが、所有と共用をあわせた割合は、昨年度よりも若干増えている。インターネット接続できると、You Tubeなどで動画を見ることもできる。また、対戦型のゲームでは、インターネット接続して、見知らぬ人と対戦したり、チームを作って遊んだり、更にその中で、チャット機能で会話をするなど、知らない人との出逢いの機会もたくさんある。パソコンからインターネット接続をすることには慎重な家庭も、ゲーム機等からのアクセスの問題点について十分に理解できていない状況もあり、この点を特に重視して啓発を進める必要がある。

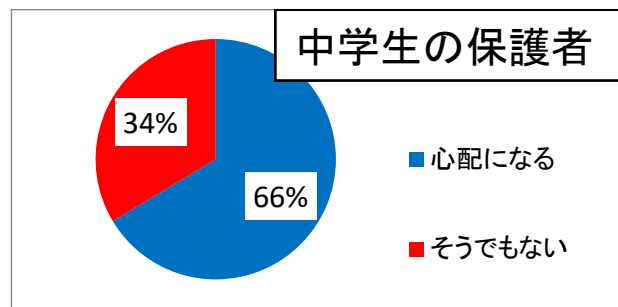
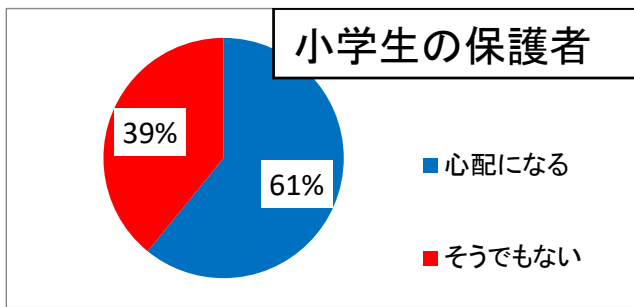
④ お子様が携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。
(a) お子様の生活リズムへの影響について



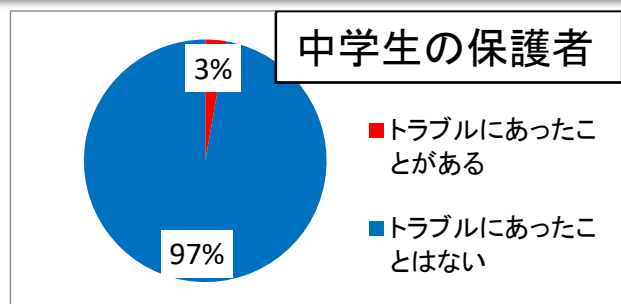
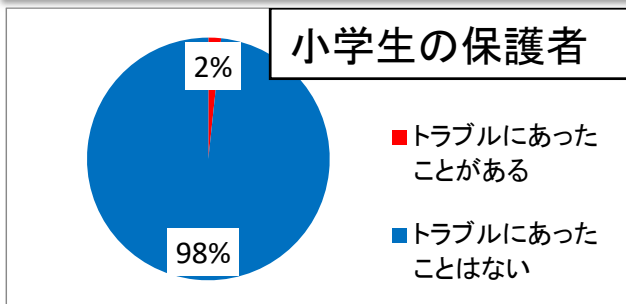
④ お子様が携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。
(b) お子様の心や体への影響について



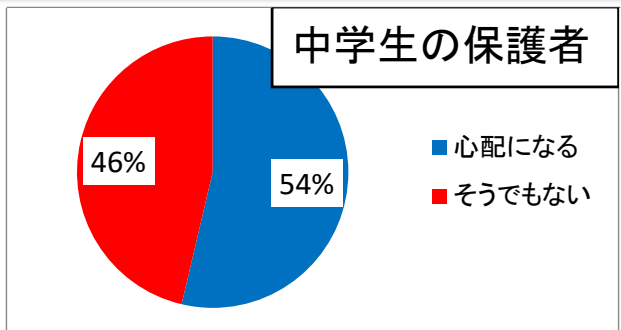
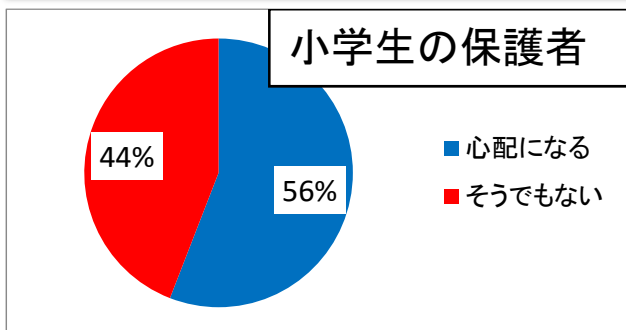
④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。
 (c) お子様の友達や他人とのネット上でのトラブルについて



④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。
 (d) お子様のネット上でのトラブルについて

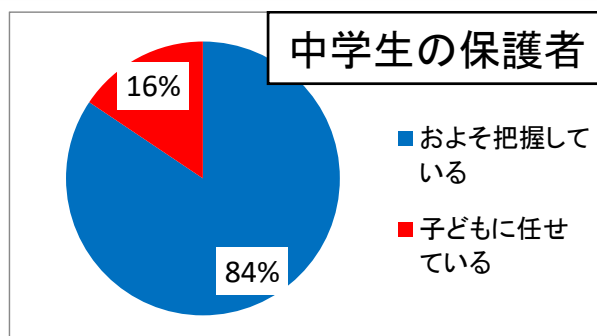
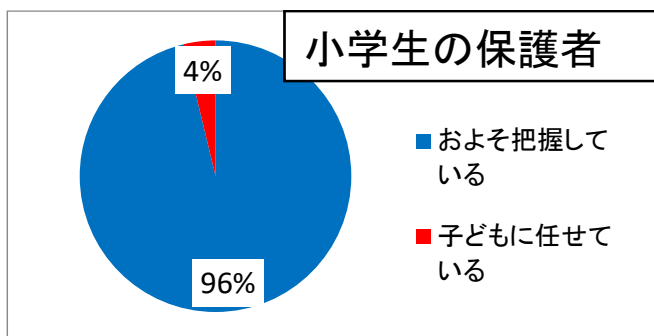


④ お子様携帯電話やゲーム機等を使うことについてお聞きします。
 (e) 会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについて

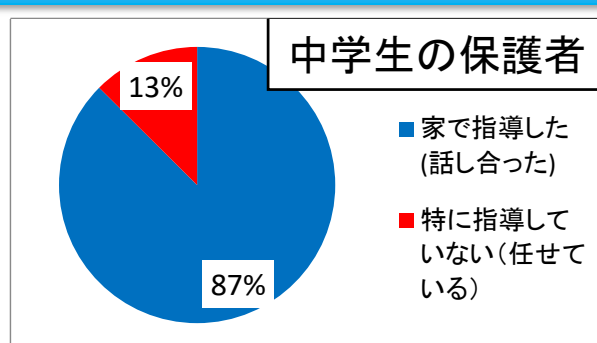
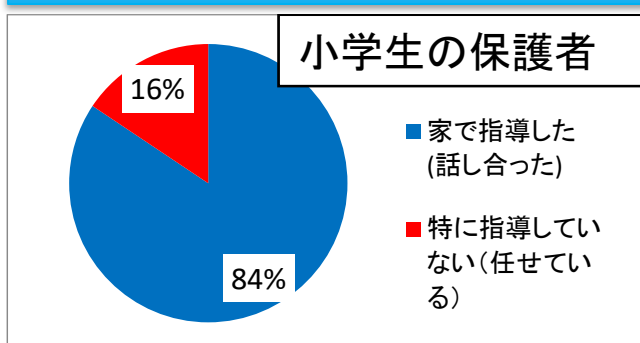


(a) お子様の生活リズムへの影響について、(b) お子様の心や体への影響について、(c) お子様の友だちや他人とのネット上でのトラブルについては、3分の2前後の保護者が「心配になる」と答えているが、昨年度よりもそう答えた割合は少しずつ減少している。対策ができてきているために心配がなくなってきたのか、子どもの使用に慣れてきて関心が薄れているためか、その背景ははっきりとしないが、気になるところである。子どもたちのアンケートの間⑥「スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって困った(心配な)ことはありましたか?」の問いに、多くの子どもたちが、お金のことや勉強中のLINE、アダルトのことに関わる心配をしていることを保護者が知らないでいる現状がうかがえる。(d) お子様のネット上でのトラブルについては、それを裏付けるように、子どもがトラブルに遭ったことがあると承知している保護者は、2~3%にとどまっている。(e) 会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについても、保護者の「心配になる」が若干減っており、保護者が思っている使い方と、実際の子どもたちの使い方、大きな認識のずれがある。

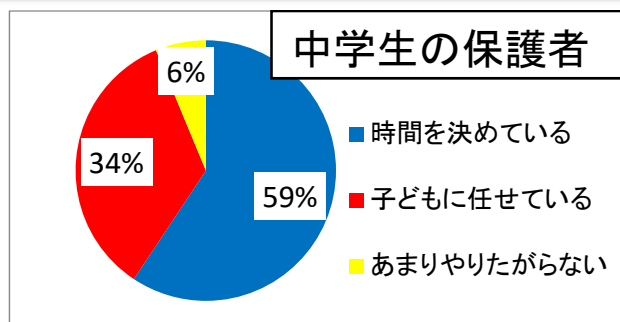
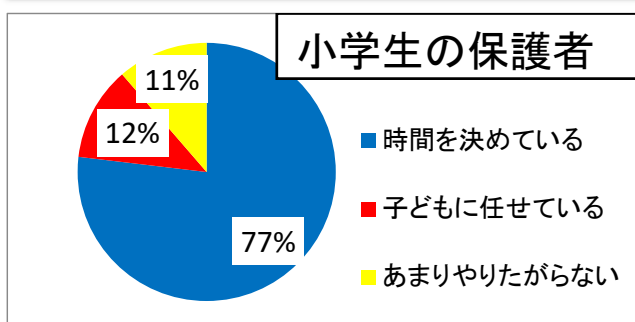
⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。
(a) 接続先や、使用状況について



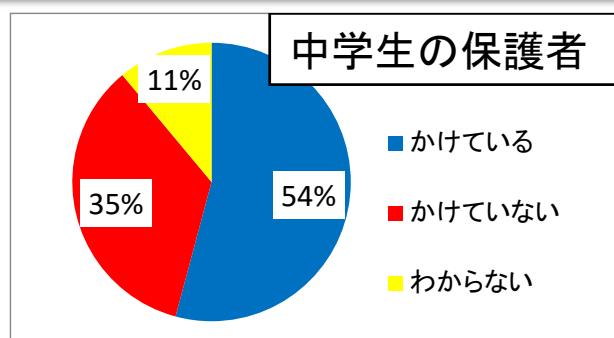
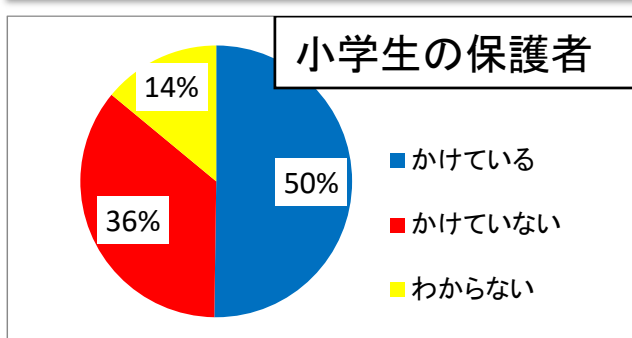
⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。
(b) インターネットの危険等について



⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。
(c) 使用時間について

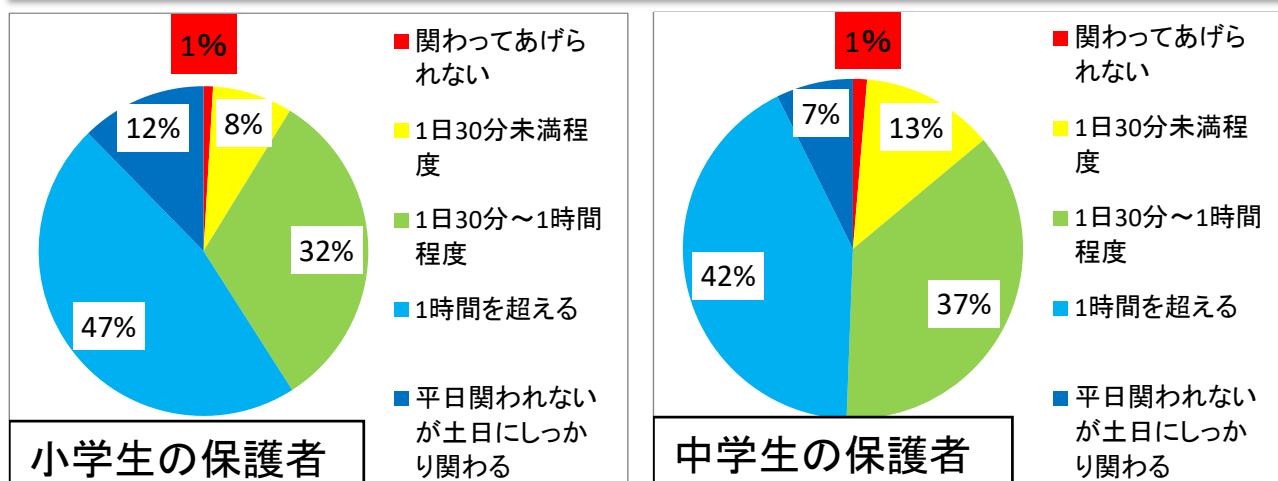


⑤ お子様のインターネットやゲーム使用について、家庭での対応をお答えください。
(d) フィルタリングをかけている



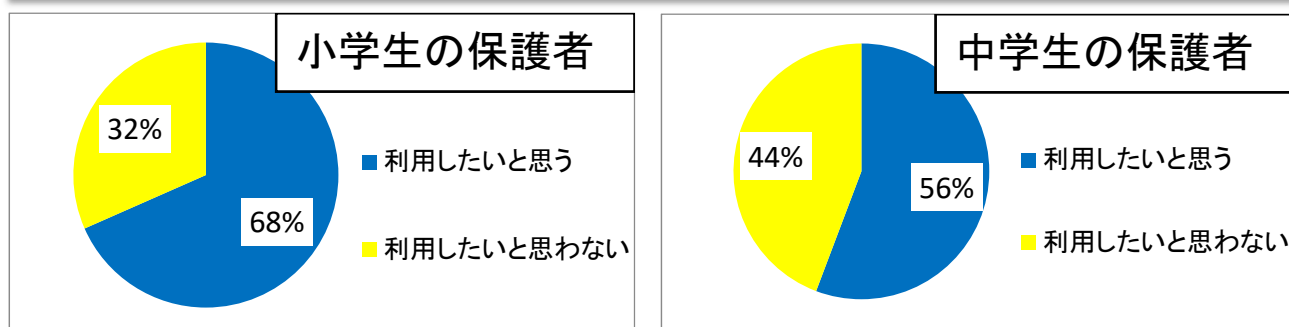
小学生の保護者は、接続先や使用状況、インターネットの危険、使用時間については、多くの家庭で対応している状況がうかがえる。反対に、中学生の保護者は、「子どもに任せている」の割合が高い。「子どもにまかせている」「特に指導していない」といった家庭については、児童生徒が自覚を持って節度ある行動を取っているために必要がないのか、あるいは本当に子どもまかせなのか、保護者が子どもの実態をつかみ、目の届かないところでの使い方にも注意する必要があることについて、さらに周知が必要である。

⑥ お子様とのふれあう時間についてお答えください。



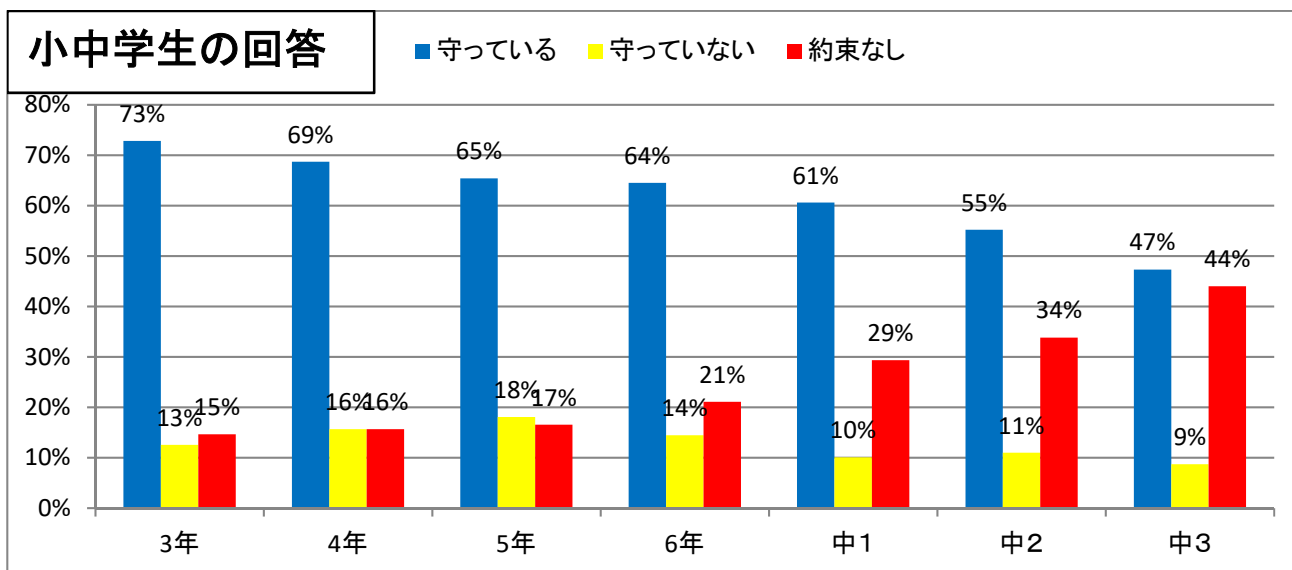
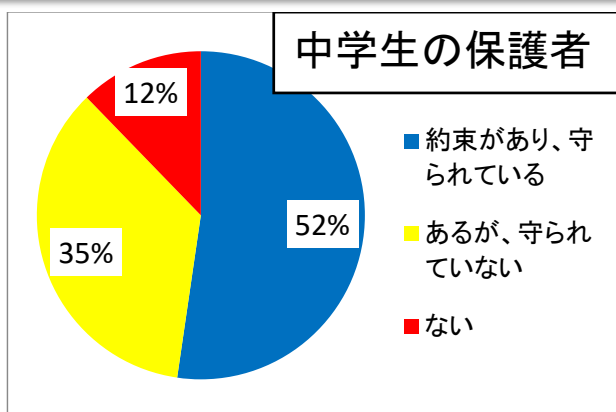
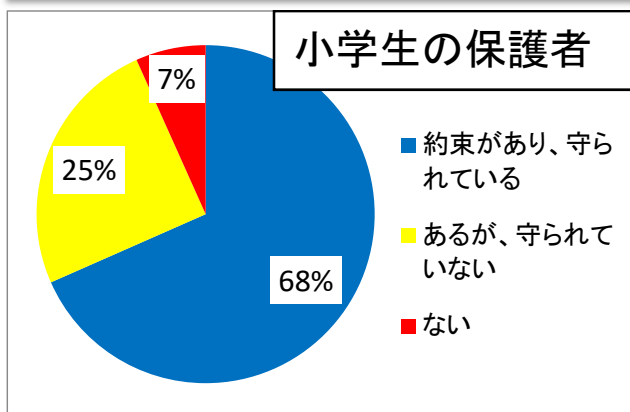
小学生、中学生ともに8割近くの家庭で、何かしら子どもとの関わりを持っていることがわかる。昨年度と、割合はほとんど変わらない状況で、保護者の努力がうかがえる。一方で、わずかではあるがかわってあげられない家庭もあり、どうやって子どもとふれあう時間を作っていくか、保護者同士の情報交換などで解決の道を探ればと思う。

⑦ お子様とのふれあう機会（親子ふれあいデーなど）があれば利用したいと思いますか？



6割前後の保護者が「利用したいと思って」おり、Saku kids メディア Safetyがこれまで行ってきた親子ふれあいデーや、啓発の資料などは引き続き有効利用してもらえると考える。「利用したいと思わない」保護者が3～4割ほどいるが、今年度は特に、新型コロナウイルス対応で、家族で過ごす時間が多くなったこともあり、ふれあう機会が持っているために、特に必要ないという家庭が多いのではないかと考えられる。

⑧ お子様の携帯電話やゲーム機等の使用について、家庭での約束はありますか？
 (※使用している家庭のみお答えください)



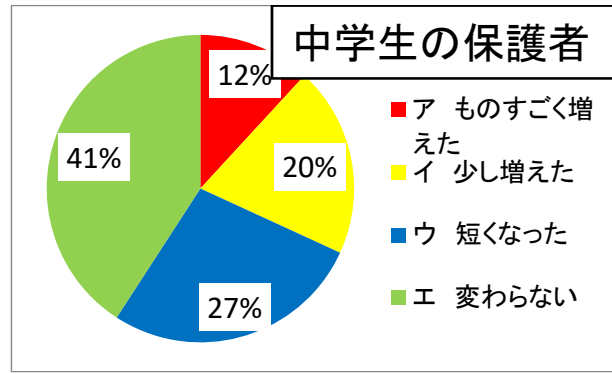
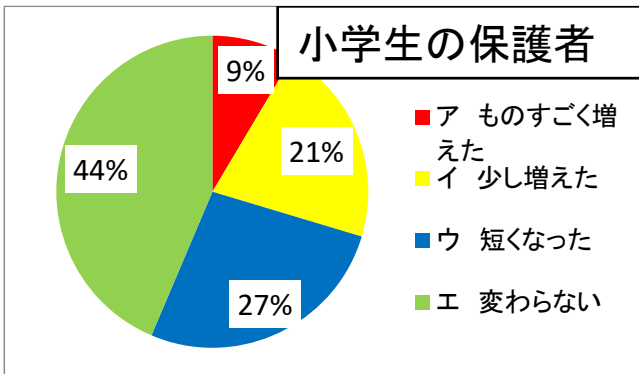
昨年度同様に、保護者の約1割が「約束がない」と回答しているが、子どもたちの回答ではそれを上回る小学生の約2割、中学生の3～4割が「約束はない」と思っている。保護者は、約束のもとにスマホやゲーム機等を使用させているつもりであっても、子どもたちは「約束がない」ものとしてとらえている。保護者の約3割が、「約束はあるが守られていない」と思っているが、子どもは「約束を守っていない」が2割弱であり、その差が「約束がない」にカウントされたものと考えられる。買ってもらうときは約束があったのだが、使っているうちに「約束がないがごときになっている」という可能性がある。この結果は、ここ数年大きな変化がない。

この意識のずれが、保護者④(d)お子様のネット上でのトラブルについての回答の、トラブル認知の少なさや、(e)会員登録やゲームの課金等でお金がかかることについての回答の、「あまり心配をしていない」が4割ほどになることにつながっているものと考えられる。子どもの使用実態を保護者がしっかりと把握した上で使用する目的や時間をコントロールしていかないと、保護者の知らないところで、多額の課金をして後日請求が来たり、見知らぬ人と会っていたり、SNSやLINEなどでとりかえしのつかない書き込みや動画の添付をしたりするような事態が起こりかねない。

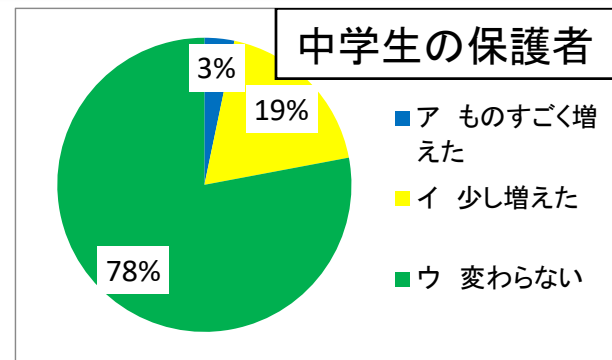
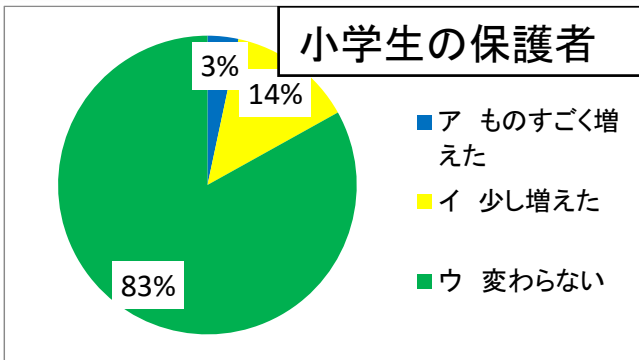
子どもを信じてスマホやゲームの使い方を任せるのであれば、心のコントロールの仕方や相手を考えた言葉の使い方などの力を子どもが身に付けて、信じて任せることができるようにしていくことが重要であろう。

＜以下、3月からの長い臨時休業が終えた、今、現在の状況に関わる緊急質問＞

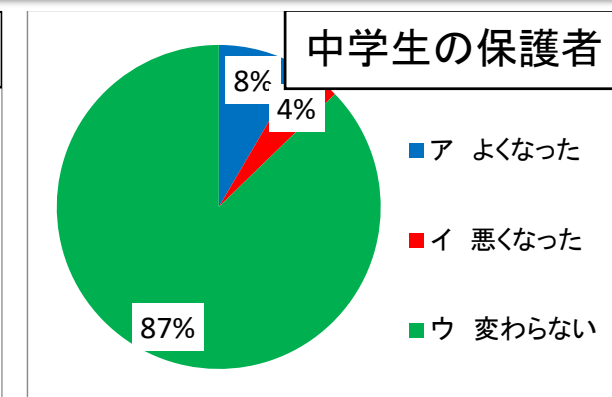
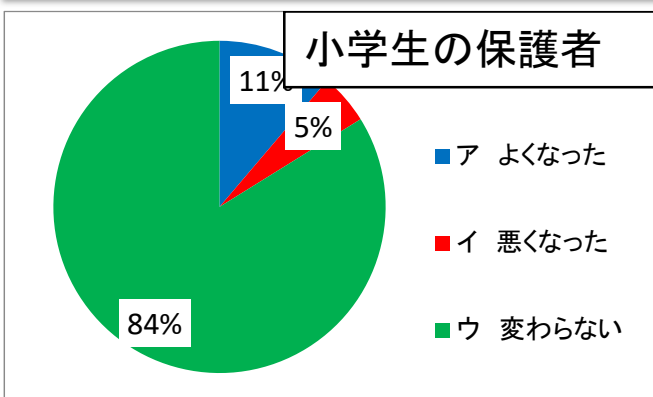
⑨ 臨時休業が終えた今、お子様がICT機器（ゲーム、SNS、動画など）を使用している時間の変化はどうか？



⑩ 臨時休業が終えた今、お子様が学習のためにパソコンやタブレット、スマホなどを使用している時間の変化はどうか？



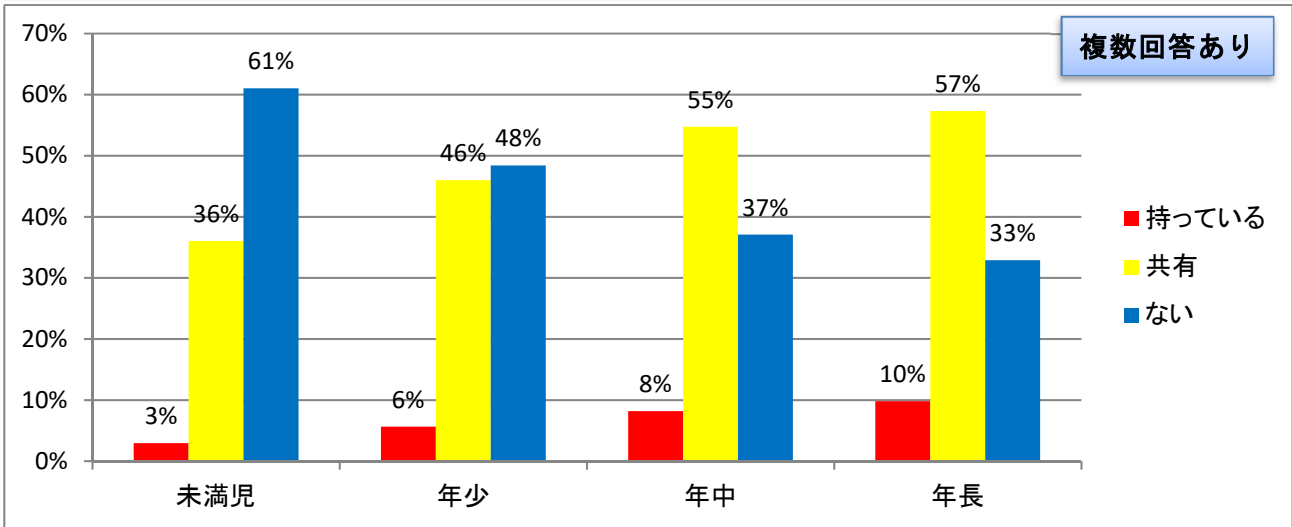
⑪ 臨時休業が終えた今、家族関係に変化はありますか？



ICT機器の使用が増えたと回答している家庭が約3割である。子どもたちの実感とは、やや開きがある。学習のための使用時間も子どもが1割ほど高い使用実感である。
家族関係について、「よくなった」は保護者が10%前後であるが、子どもたちは中学3年の17%～小学校3年の38%と、保護者よりもずっと高い割合で家族関係が良くなったと感じている。意識の「ずれ」はあるものの、子どもたちのこのとらえはうれしい実態である。

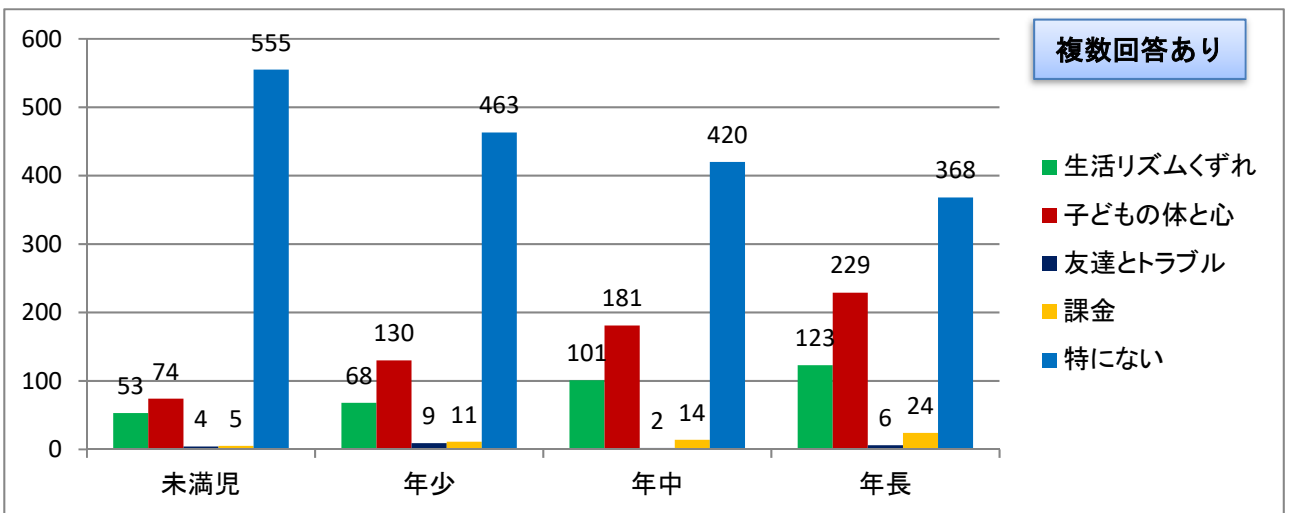
(3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

問① 子どもが使えるゲーム機や、ゲームができるタブレット等がありますか？



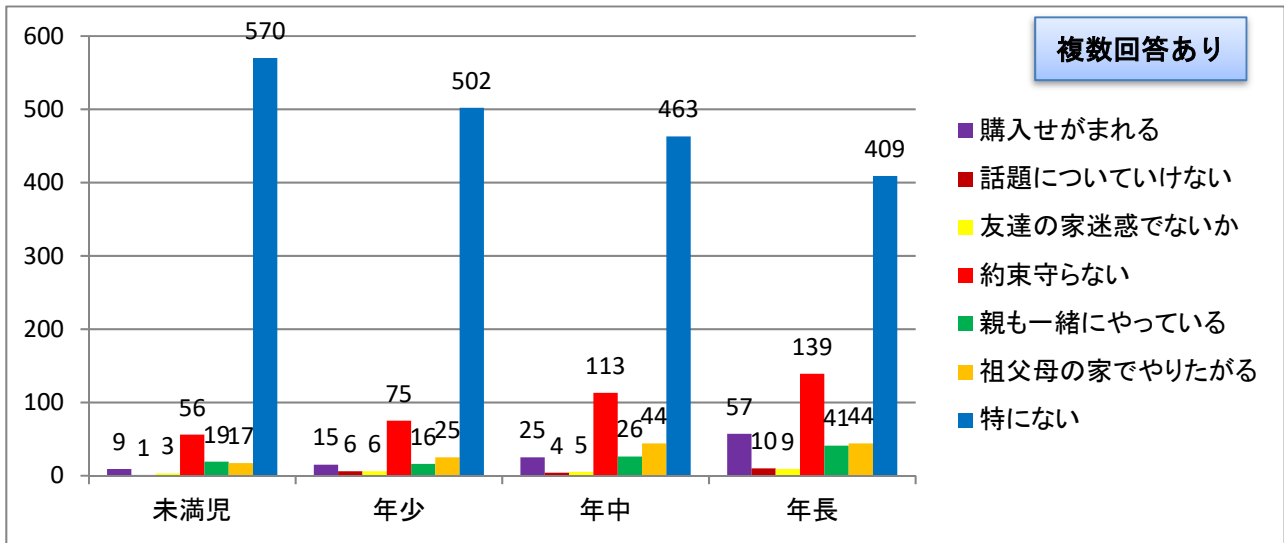
問①では、共有で使える子どもが多く、未満児で39%、年少～年長では6～7割の子どもが何らかの形でゲーム機等に触れている状況がわかる。昨年度と比べて、どの年齢も少しずつ増加している。年長では、約1割が自分で使えるゲーム機等を持っており、使用時間や使用目的等について保護者がどれだけ実状を把握し、必要な指導を行っているか心配されるところである。

問② 子どもがタブレット、ゲーム機等を使うようになって不安なことはありましたか？



子どもがタブレット、ゲーム機等を使うことに関しては、不安なことは特にないという回答が多く、およそ保護者の管理下で使用されている状況がうかがえる。一方で、「子どもの心と体への影響」を心配する保護者の割合は比較的高く、昨年度よりもさらに高まった結果となっている。幼少である子どもへの影響を心配している状況がうかがえる。友達とのトラブルや課金についても心配をしている家庭が、わずかとはいえ、早くも幼少期から認められることは見逃せない実態であり、具体策が求められる。

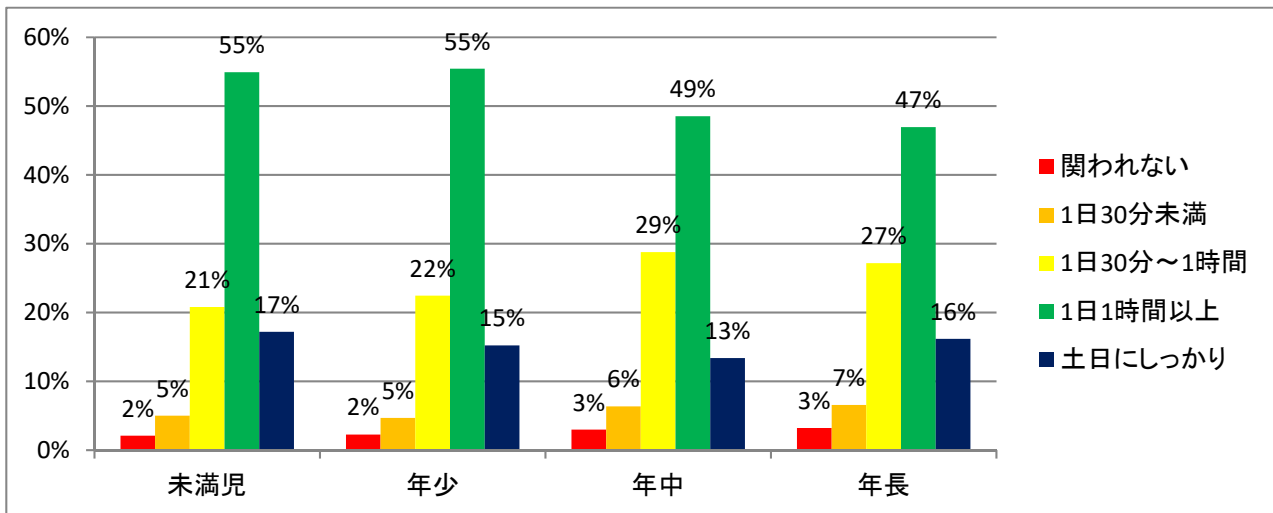
問③ その他、対応に困ることなどありますか？



ほとんどの家庭で対応に困ることは「特にない」と回答しており、こちらも保護者の管理下で使用されている状況がうかがえる。

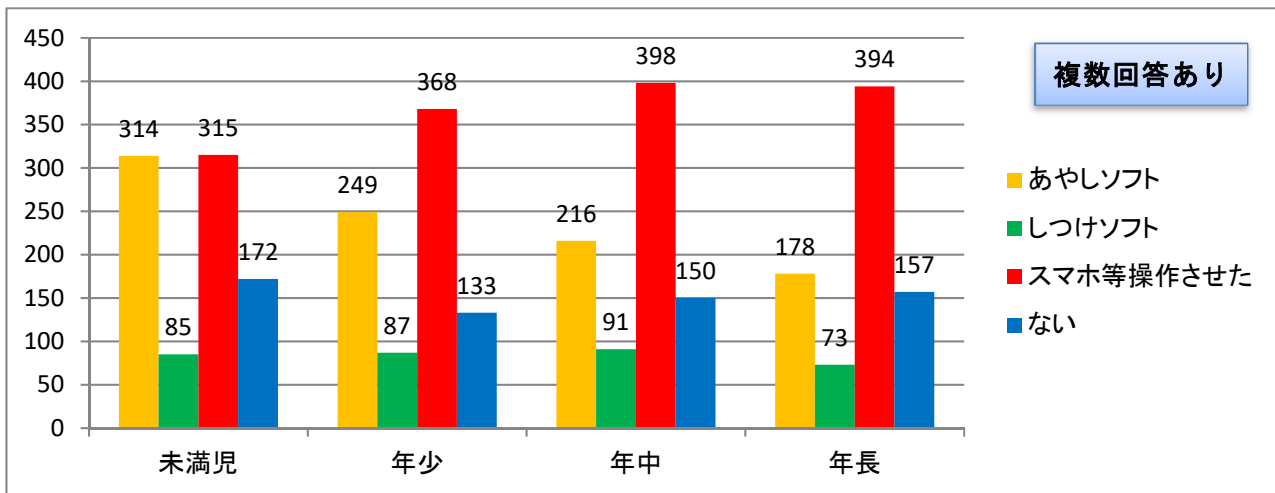
しかし、わずかずつではあるが「約束を守らない」が、年齢が上がるごとに増えており、問題意識の中では筆頭にあげられる。次いで「購入をせがまれる」「祖父母の家でやりたがる」が続く。ただし、「約束を守らない」以外は、ほとんどの回答で減少しており、これまでの呼びかけなどの効果により、保護者の意識が高くなり対応できてきている、または、気にならなくなっていると考えられる。

問④ 子どもとのふれあいについてお答えください？



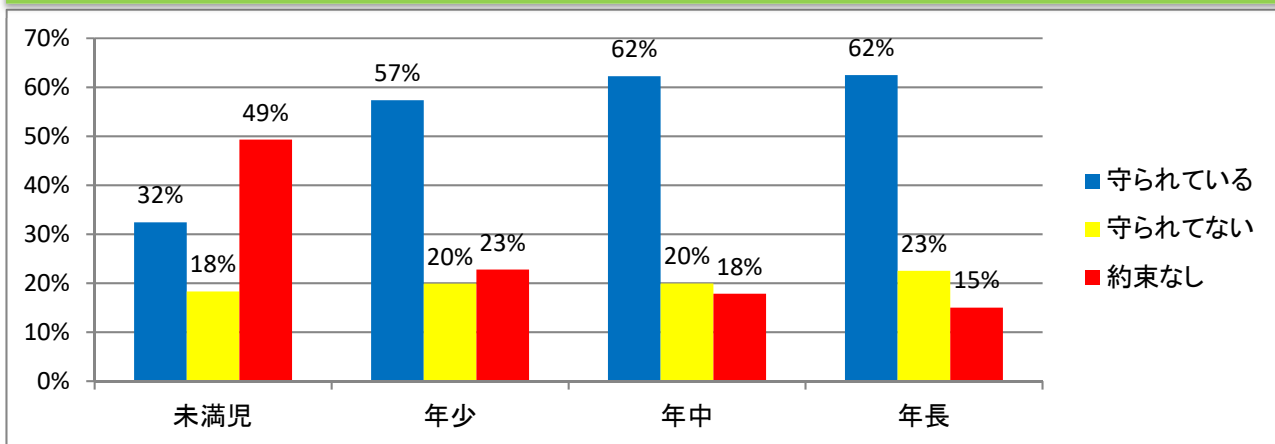
1日1時間以上子どもとのふれあいをしている家庭が最も多く、30分未満であっても子どもとのふれあいの時間を持とうとしている状況が見られる。平日に時間がとりづらい家庭は、土日などの休日にしっかりと子どもとふれあう時間を生み出している。昨年度よりも、「関われない」家庭がそれぞれわずかではあるが減っている。保護者が子どもとふれあうことが、結果的にメディアとの上手な付き合い方にもつながる。

問⑤ 最近の1年以内で、子どもを落ち着かせたいときや言うことをきかせたいときに、スマホ・タブレットやゲーム機等に、たよったことはありますか？
(少しでも当てはまるものがあつたら○をしてください。)



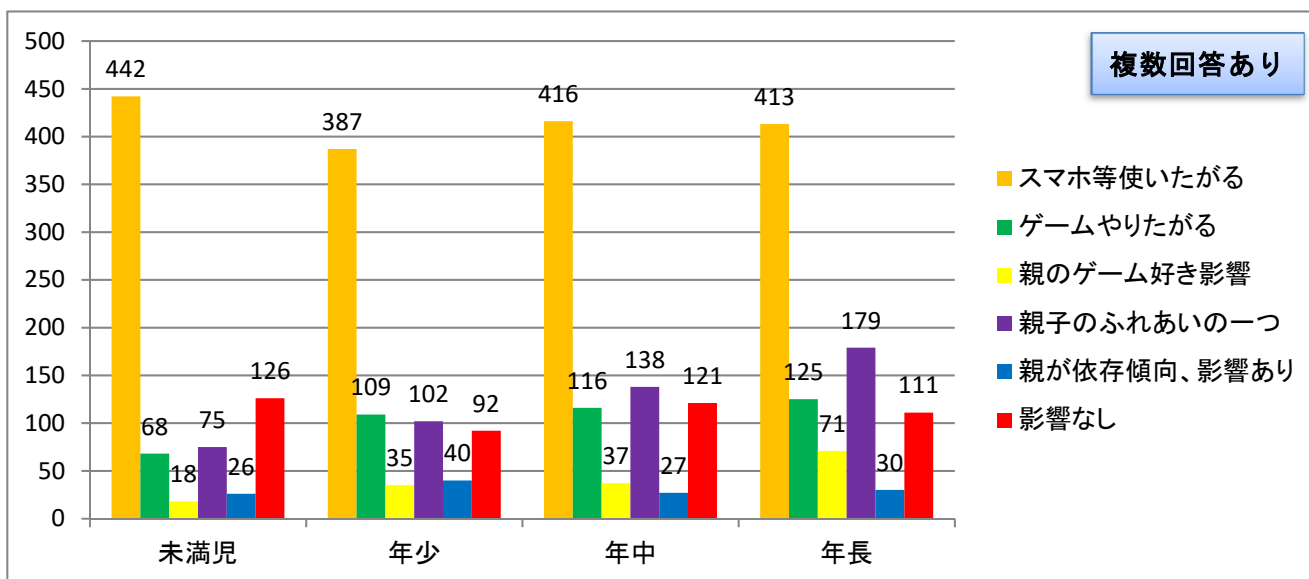
多くの保護者がスマホ・タブレット・ゲーム機等にたよった経験があると回答している。「スマホ等を操作させた」が多く、「あやしソフト」が2番目に続く。たよったことはないと回答した保護者は、全体の2割弱である。子どもは、動くものや音の出るものに反応する傾向が強く、動画や音楽を見せたり聞かせたりして安定化を図ることが多いようである。どうしても保護者の手が離せない時などの対応かと思われるが、それに慣れて、長時間の使用をすることや頻繁に使用することがないようにしないと、子どもたちの心や体への影響が心配される状況となる。

問⑥ タブレット、ゲーム機を使うときの子どもとの約束はありますか？
※使用しているお家だけ教えてください。



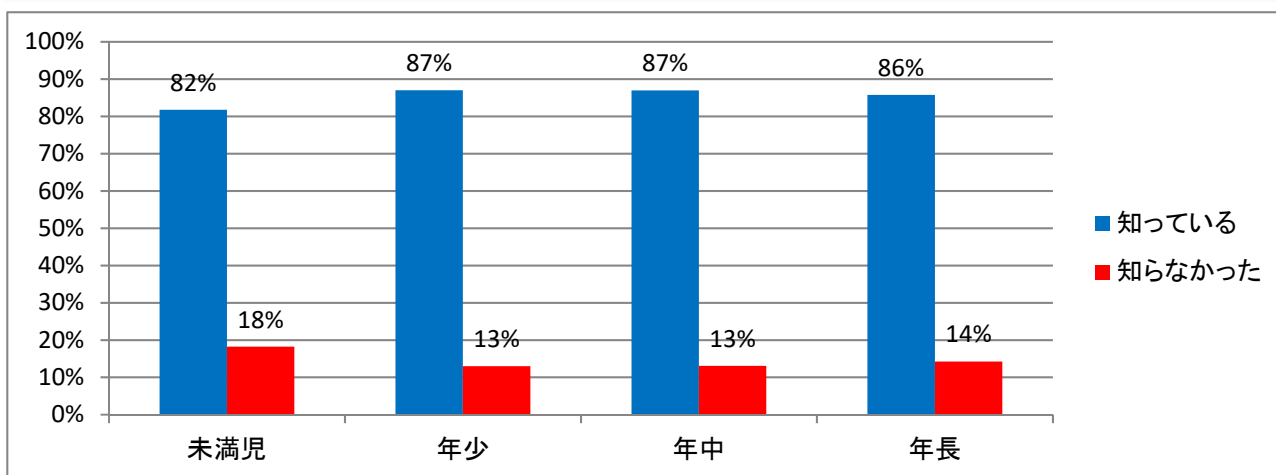
全体の傾向としては、昨年度と大きく変わっていない。「約束なし」が減っており、約束をしている家庭が少しずつ増えている。「守られている」割合は、年少、年中、年長ともに、昨年度よりも増えており、子どもも保護者も意識が高まっている。反対に、「守られていない」もわずかずつではあるが増加し、年長では2割超の結果となっていることは残念である。未満児では、約束自体が難しい子どもが多いのではないと思われる。低年齢での使用はなるべく避けたいが、使用する場合には、年齢に応じた使用の工夫を工夫することが大切になる。

問⑦ タブレットやゲーム機等使用について、親から子どもへの影響が出ていると思いますか？



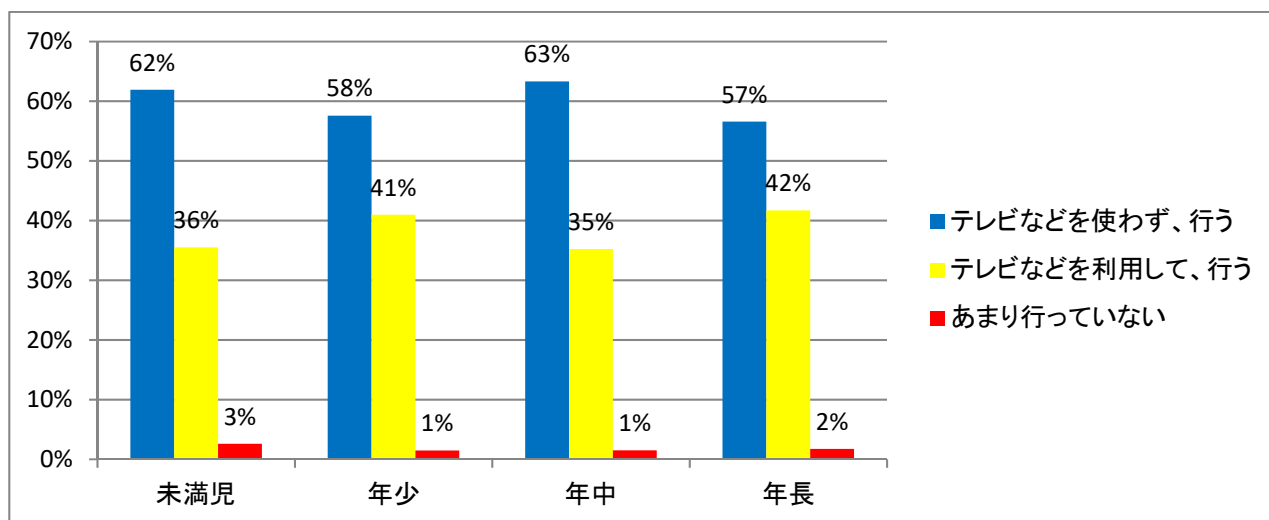
スマホを使いたがる子どもは、未満児から多く見られる。未満児は、昨年よりも大幅に増加している。他の項目も増加傾向で、子どもへの影響を実感している保護者が多い。「親が依存傾向、影響あり」は横ばいだが、「親のゲーム好き影響」「親子のふれあいの一つ」が増加しており、「影響なし」は減っている。親の姿勢が子どもに影響することはわかっているが、自分の使用したい気持ちをコントロールし難い状況を表していると考えられ、保護者が「ゲーム世代」「スマホ世代」で育ってきたと言われる現在において、保護者自らが子育てのあり方について考える機会を増やしていく必要がある。

問⑧ 電子メディアの使用が0～2歳の子どもの心や体に、大きな影響があることをご存じですか？



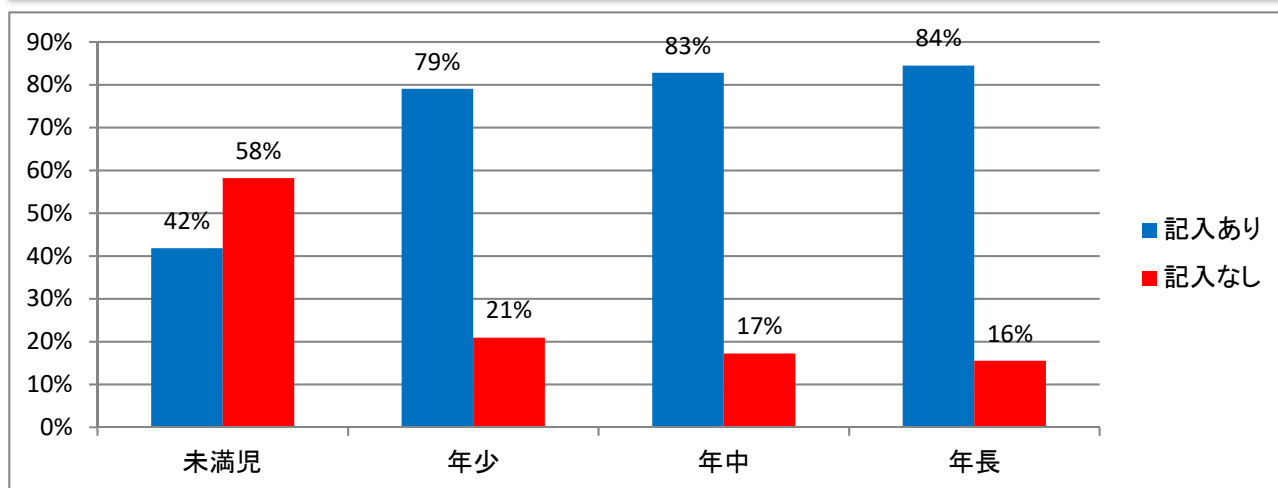
「知らなかった」と答えたのは、昨年度から2～3%ずつ減っている。今後も、電子メディアの長時間使用による幼児期の子どもの心や体への悪影響について、小児科医会などから発信されている内容などを、保護者にさらに周知できるよう発信し続けていく必要がある。電子メディア使用の大人の心身への影響と子どもへの影響とは、大きく違いがあることを認識し、特に乳幼児期に電子メディアに接触することの問題の大きさを、大人が理解する必要がある。

問⑨ 食事の時などに、テレビや電子機器の利用などに限らず、
親子の対話やふれあいを行っていますか？



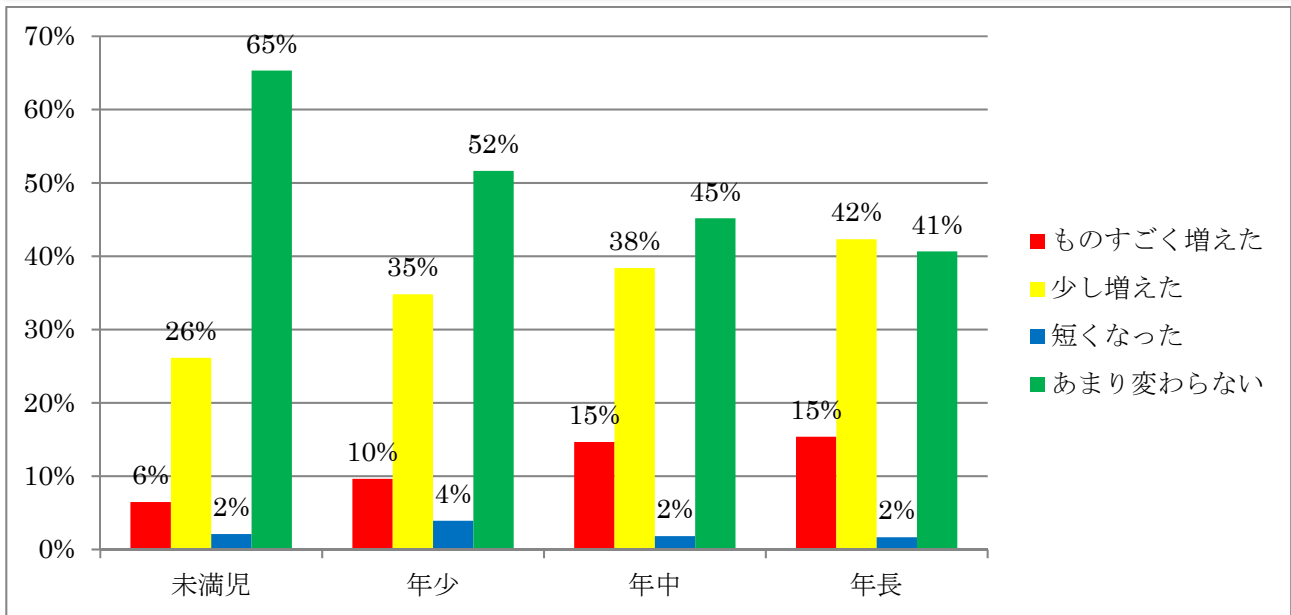
親子のふれあいについて、ほとんどの家庭が、食事の時などに意識を持って実践しており、大切に考えている状況がみられる。テレビなどを使わずにふれあいを行っている家庭が全体の6割前後を占め、子どもとの会話などを大事にしている様子うかがえる。また、3～4割の家庭では話題のきっかけや材料としてテレビなどを利用し、ふれあいのひとときを過ごしている様子である。

問⑩ お子さんの将来のゆめは何ですか？親子で話し合ってみてください。



未満児は、「将来のゆめ」という概念をまだ持てない子が多いのかも知れないが、年少になると7割以上が、年中、年長では8割以上が、「将来のゆめ」について親子で話し合うことができている。また、年少以上は、昨年度よりもそれぞれ数%増加しており、子どもも保護者も意識が高まっていることがうかがえる。なお、「記入なし」であっても、話し合ったけれどまだ具体的に「ゆめ」を持つところまで行かないというケースも考えられ、このような話題を親子で持つこと自体が大切なふれあいの機会であり、親から子への愛情表現ともなっていると考える。

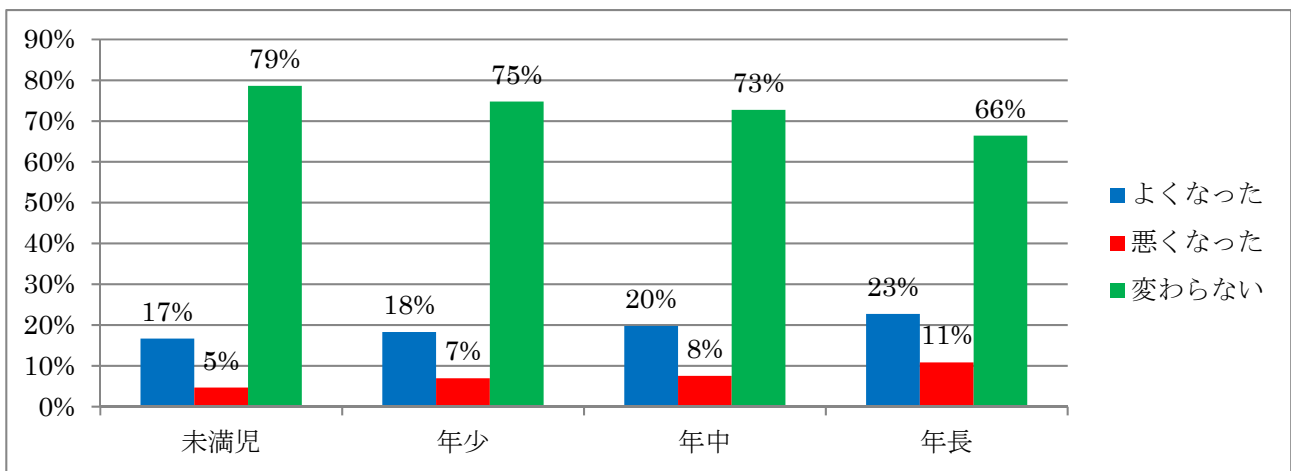
問⑩ お子さんがテレビや電子機器(ゲーム、動画など)を使用した時間はどうでしたか。



どの年齢も平常時より増加した家庭が多い。「ものすごく増えた」「少し増えた」を合わせると、未満児でも 32%、年長では 57%となっている。電子機器の使用が多く、家庭で増加または増加傾向であったことがわかる。保護者と子どもが一緒に使用する段階から、子どもだけで使用する段階へと変化していくことが自然の流れであるが、次の点に十分配慮し、保護者としての責任を果たしたい。

- ① 心や体への影響を考えること。
- ② 情報モラルなどをふまえて危険な使い方をしないこと。
- ③ 子どもが使用を自己コントロールできるようにすること。
- ④ 電子機器の使用は、長時間を避けること。

問⑪ 家族関係に変化はありましたか。



約 2 割の家庭で、「よくなった」と回答があったが、1 割程度は「悪くなった」と回答があり、家族で過ごす時間の使い方には、各家庭での工夫が必要であると感じる。保護者同士の情報交換もよりよい家族関係づくりのヒントを与えてくれるものと考える。